



令和6年度 九州大学病院  
きらめきプロジェクト

# 報告書



令和7年3月



## 令和6年度 報告書 目次

• ごあいさつ .....	1
• プロジェクト概要	
1. 九州大学病院きらめきプロジェクトの概要 .....	2
2. 今年度のきらめきプロジェクトを振り返って .....	4
3. きらめき遠望 .....	6
4. きらめきプロジェクト構成 .....	7
• 実施状況	
1. ジェンダー学講義 .....	9
2. 性差医学入門講義 .....	11
3. 令和6年度学生交流会 .....	12
4. 令和6年度九州大学馬出地区4部局合同男女参画FD・ 九州大学病院臨床研修センター きらめきプロジェクト講演会 .....	14
5. 令和6年度スタッフ発表会 .....	16
6. 学内外での活動 .....	34
7. 情報発信 .....	36
8. 学習プログラム .....	42
9. スタッフミーティング議事録 .....	43
10. 令和6年度秋/令和7年度 採用募集要項 .....	45

編集後記





## ごあいさつ

九州大学病院  
臨床教育研修センター  
センター長 新納 宏昭

本プロジェクトは、平成 19 年に文部科学省大学改革推進事業として発足し、平成 22 年度より九州大学病院独自予算にて「きらめきプロジェクトキャリア支援センター」として引き継がれました。

令和元年 11 月 1 日からは、このシステムの必要性があることが認識され、恒常的な組織として本院臨床教育研修センターに組み入れられ、活動を続けております。

本プロジェクトは、出産・育児・介護・自身の病気等の為、離職を余儀なくされる医師や歯科医師が、性別を問わず、能力を十分に発揮できるよう、下記のような取り組みを行っています。

### きらめきプロジェクト事業内容

- 1) 常勤復帰を前提としたスキル継続のための専門性に応じた非常勤勤務制度（専門の外来勤務・検査業務）
- 2) 定期開催のスタッフミーティングによるスタッフの交流
- 3) 講演会・学生交流会・スタッフ発表会などによる啓発と周知活動
- 4) スタッフの教育学習支援のため、本プロジェクト主催の講演会等の動画配信
- 5) ホームページ・きらめき通信(隔月発行)・報告書(年 1 回発行)による情報発信
- 6) 医学部・歯学部生に対する性差医学や医療人としてのプロフェッション教育
- 7) 他大学・基幹病院・近隣の医療機関との連携
- 8) 福岡県医師会・歯科医師会・企業などの支援組織との連携

きらめきプロジェクトは、加藤聖子先生を中心に、医師・歯科医師が隔たりなく診療科の垣根を越えて明るく元気に支えあって活動をしています。

医師の働き方改革を進めるための新しいルールが 2024 年 4 月から始まりました。地域に必要とされる医療を持続的に提供できる社会の実現を目指していく中で、本プロジェクトがより大きく発展し、広く浸透するよう引き続き努力してまいります。

皆様には今後とも更なるお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

# プロジェクト概要



## 1. 九州大学病院きらめきプロジェクトの概要

九州大学病院臨床教育研修センター

きらめきプロジェクトプログラム責任者 加藤 聖子

今年度、医系キャンパスに通常の活気が戻ってまいりました。このような状況の中、きらめきプロジェクトも授業や講演会などの活動をコロナ禍以前の状態で行えるようになっております。

令和1年11月からは九州大学病院臨床教育研修センターが、キャリア継続研修という意味を含めて、きらめきプロジェクトを包含することになり、令和6年度もセンター長新納宏昭先生の体制下で行いました。メンバーとしては、昨年度と同様、顧問の樗木晶子先生（福岡歯科大学医科歯科総合病院健診センター長）、プロジェクト責任者を加藤聖子（医学研究院生殖病態生理学）が担当し、副プロジェクト責任者を落合正行先生（医学研究院周産期・小児医療学）、宮田潤子先生（医学研究院保健学部門看護学分野講師）、清水真弓先生（口腔画像診断科 講師）、大山順子先生（口腔顎顔面外科 講師）、永吉絹子先生（臨床・腫瘍外科 助教）にお願いしています。

今年度のきらめき所属者数は延べ21名（医師15名・歯科医師6名）でした。昨年度に比べ医師は同数ですが、歯科医師が1名増加しました。これにより、立ち上げ（H19）から今年度までに所属した人数180名（医師127名・歯科医師53名）となりました。また、現在男性医師2名も所属していただいています。きらめきは、女性だけではなく男性医療人も支援するという目的があります。今後も男性医師へも周知していきたいと思えます。

今年度の授業は対面で、医学部ジェンダー学講義（4月15日 担当：樗木晶子先生、加藤聖子）、性差医学入門講義（7月11日 担当：九州大学病院乳腺外科 久保真先生、宮田潤子先生）、歯学部ジェンダー学講義（11月18日 担当：清水真弓先生）を行いました。

また4月15日のジェンダー学の2限目と3限目の講義の間の昼休みの時間に、コロナ感染症で行動制限があっていた期間は中止していましたが福岡県医師会共催による「医学部学生交流会」を昨年を引き続き開催しました。常務理事の田中真紀先生が講演してくださいました。ご自身の経験を交えた女性医師のキャリアプランのお話は現場に出ていく前の医学部学生さん達には大変参考になったと思えます。また、10月28日歯学部学生交流会（担当：鳥谷歯科医院 桑鶴利香先生）が開催されました。女性学生だけでなく男子学生もこの学生交流会に参加しますので、学生の時から、男女の働き方について興味を持ってもらうのには大変良い機会になると思えます。

9月11日にはきらめき講演会を新しくできたアイン薬局九大南店2階会議室で開催いたしました。今年度は、馬出地区4部局合同男女共同参画FDとの共催で行いまし

た。講師は九大医学部卒業生で現在、福岡市副市長の荒瀬泰子先生で、「増える認知症と対策（福岡市）」のタイトルで講演していただきました。福岡市が行っている健康プロジェクトの内容が海外でも高く評価されていることを知り、また行政の場でその活動の中心として生き生きと活躍されている先生のお姿に参加者一同感銘を覚えました。69名の参加をいただき盛況でした。

月に1回のスタッフミーティングは今年も ZOOM による遠隔で、自己紹介・近況報告・事務連絡を行いました。3月には、1年の総まとめとしてスタッフ発表会を開きました。皆さんが臨床に、家庭に、仕事に頑張っていることをポスターにまとめていただきました。

私がこのきらめきプロジェクトの活動を担当させていただいて5年目に入ります。「きらめき所属期間中の臨床経験をもとに、各分野の専門医が取得できました」という報告も複数いただいています。2名が学位取得をされております。今後もこの流れが続くように、時代に即した男女共同参画を目指していきたいと思っております。皆様のご協力・ご支援よろしくお願い申し上げます。

## 2. 今年度のきらめきプロジェクトを振り返って

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 落合 正行

今年度より医師の働き方改革が本格的に始まりました。福岡県の人口は令和7年1月時点で509万人弱とゆるやかな減少に入りました。このなかで国の歳出のうち社会保障給付費は137.8兆円と過去最高を計上しています。令和7年2月現在、高額療養費制度の引き上げに関する議論が国民の関心を集めています。時をさかのぼること令和6年4月、周産期医療で施設管理料における人員配置の要件が突然改訂され、九州大学病院においても大幅な収入減と専任医師の再配置と大きな改革に迫られました。人口減少社会において、社会保障の継続に向けた取り組みは待ったなしの状況であることを実感致しました。

きらめきプロジェクトは、これまで経験したことがない医療改革のなかで、それぞれの境遇に立たされた医師・歯科医師が、したたかに働き続け、キャリアアップに結び付け、そして地域や世界に貢献できることを目標としています。今後ともプロジェクトへのご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 宮田 潤子

4月より働き方改革が開始となり、日本小児外科学会ではワーク・ライフ・バランス検討委員会が中心となり、学術集会開催時に、各大学の代表者にご登壇いただき、働き方改革に対する意見を述べていただきました。会場参加者からも多くの意見が出ました。小児外科特有の問題として浮かびあがったことは、「小児外科疾患の稀少性と自己研鑽の機会の貴重性」です。働き方改革により労働可能時間が厳格に管理されるようになりましたが、若手医師のなかには「1～数年に1回見るかどうかの稀少な症例の診断や手術経験の機会を逃したくない」という思いもあります。小児外科医の奉仕の精神と情熱により小児外科医療が支えられていることを切に感じる機会となりました。きらめきプロジェクトに所属している先生方に支払われる対価は決して高いものではありません。それでも、大学に在籍することで貴重な経験や研究の機会などを得て、ご自身の生活上の諸問題とバランスを取りながら、前に進むための一歩としてきらめきプロジェクトを利用されていると感じます。本プロジェクトに所属される先生方もまた、奉仕の精神と情熱をお持ちなのだと感じ、私自身も励まされています。

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 永吉 絹子

きらめきプロジェクトは2007年より活動を開始し、本年度で17年目となります。これまでのプロジェクト利用者の推移、利用後実績をまとめてご報告させていただきました。医科歯科合わせてのべ369名の方が利用しており、毎年14名以上がプロジェクトに在籍し九大病院での業務に携わっております。原則3年という利用期間の制限はありますが、利用者の80%近くはプロジェクト終了後もキャリアを継続することができていました。利用期間中の資格取得や学位取得にも貢献できており、改めてきらめきプロジェクトの重要性を認識いたしました。引き続き、多くの方々のキャリア継続を支える役割を担っていきたいと考えています。

また、プロジェクト顧問である樗木晶子先生と行っているフィリピンと日本における医療従事者の労働環境に関する国際共同研究について、論文化を進めております。この研究では文化の違う二国間での医療従事者の職場環境における問題点を抽出することができ、九州大学病院の現状と課題を反映したものであると考えられました。来年度は研究結果をプロジェクト活動に還元していきたいと思っております。

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト  
副プログラム責任者 清水 真弓

歯学部2年生に歯学総論2の一枠で「歯科医師としてのキャリアパスと男女共同参画」と題したTBLを行いました。3週前に「きらめきプロジェクト歯学部学生交流会」として、鳥谷歯科医院 桑鶴利香先生に講演していただきましたが（大山順子先生の文章を参照ください）、その内容を理解した上で、自分自身と自分のパートナーとのライフプラン、家事分担について考えてもらいました。どのような歯科医を目指すのか、家事や育児をどう分担するのかなどについて初めて考えたという学生も多く、早くからそのような機会が与えられることは意味のあることだと感じます。また、グループディスカッションにより、自分とは全く違った他者の意見が聞けることも新鮮だったようです。

このTBLは5年目になりますが、学生の意識も少しずつ変わってきたようで、男女平等の考え方がより浸透しているように思います。授業後のレポートで、学部創設以来、歯学部には女性教授がないというのはかなりの学生が意外に感じていました。また、きらめきプロジェクトの存在が女子学生にはもちろん、男子学生にも安心感を与えていることがわかりました。

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト  
副プログラム責任者 大山 順子

「令和6年度きらめきプロジェクト歯学部学生交流会」は10月28日（月）に昨年に引き続き、きらめきプロジェクトのOGの鳥谷歯科医院 桑鶴利香先生にご講演をお願いして開催いたしました。

桑鶴先生は九州大学歯学部卒業後の大学院時代の研究生活、一時期はきらめきプロジェクトにも所属されながらの教員生活、大学退職後の勤務医生活と、結婚・妊娠・出産・育児のワークライフバランスをどのように考え実践してきたかをお話しくれました。昨年までのご講演に加えてさらに年を重ねてきたこともありお子様の成長、ご両親のことなど少しずつワークライフバランスが変化してきていることやそれに柔軟に対応していらっしゃることもお話しいただきました。そして今なお歯科医師として新しい分野に目を向けて勉強していることや患者さんとの関わりについて、そして歯科医療の今後の展望とそのため学生の間は何を行ってほしいかについて熱くお話ししていただきました。

歯学部2年生の歯学総論2の一枠として開催しましたが、講義や学部の試験や卒業、国家試験などまだ目の前のタスクばかりに目が向く学生にとって、大学卒業後の人生について考える貴重な時間となった様子で、ご講演後には具体的な質問が多数ありました。

男女共同参画という面でも医科に一步も二歩も遅れをとっていると思われる歯科界ですが、きらめきプロジェクトのOGでもある桑鶴先生はこれからの歯科界を担う学生に新しい視点と勇気、男女共同参画を考える機会を提供して下さり、この後の男女共同参画のTBLにつながる貴重な時間となりました。

### 3. きらめき遠望



きらめきプロジェクト顧問

福岡歯科大学医科歯科総合病院 健診センター長

福岡看護大学 学長

樗木 晶子

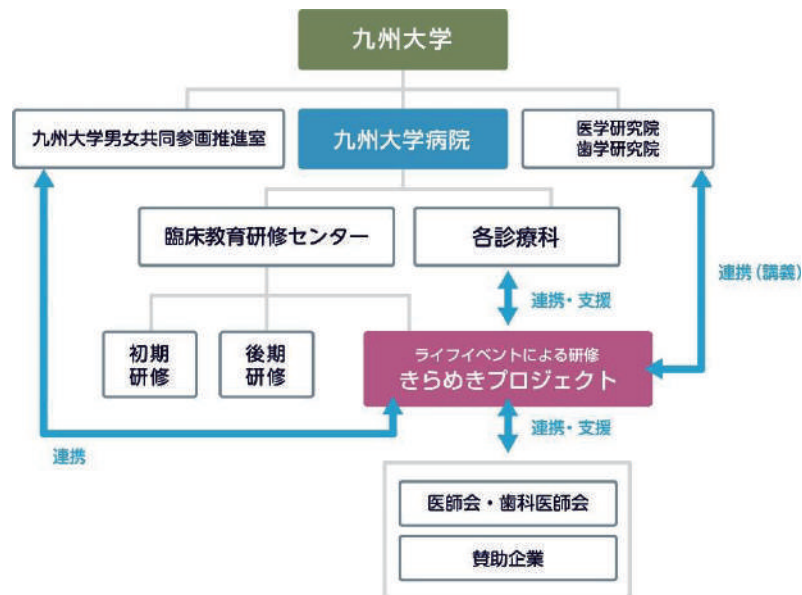
2025年の幕開けは、昨年と違い晴れの毎日が続き打って変わった穏やかさでした。しかし、大変な物価高騰とトランプ政権による勝手し放題に翻弄されて私たちの生活の先行きが不安な状況も多々見られます。最新のジェンダーギャップ指数も発表され、日本は146カ国中118位であり、2022年の116位と比べてもほぼ横ばいです。なかなか進みません。教育、健康、政治、経済という4つの分野の中で政治と経済において女性の活躍が極端に低いためと言われていますが、この順位を見ると少し腑に落ちない部分も多く感じます。ルワンダなど紛争がやっと治って未だ貧困に喘ぐ国が39位であったりします。評価視点として、あくまでも4分野の男女差のみの比較であり各分野の国間のレベルの差を無視していることによると思います。しかし、経済的に安定し同等レベルの国を拾ってみても、その中で日本は最下位です。政治・経済は私自身も苦手ですし、政治家のイメージがあまりにも悪いため、政治に関わるのは憚られる印象すらあります。政界や経済界のダークイメージを変えてゆくのも女性の役目でしょう。中国の陳延之の言葉に「小医は病を癒し、中医は人を癒し、大医は国を癒す」というのがあります。医療の世界でこのような言葉があるからには、我々医療人ももっと女性の大医を輩出し、国を癒さなければなりませんね。この点に於いて、九州大学医学部は身近な存在として福岡市副市長を長く務められている荒瀬泰子先生がおられ、先日の講演会では、皆様も非常に鼓舞されたことと思います。

3月8日は国際女性デーでした。1900年当初、欧米で女性労働者が女性の権利と男女平等を求めて立ち上がったことに端を発し、1975年、国連が国際女性デーを3月8日に定め各国で様々な取り組みがなされています。リプロダクティブ・ライツは性に直結した女性特有の権利ですが、女性の政治家が少ないためにピルや経口中絶薬の導入は我が国では非常に遅れました。女性政治家が少ない事は、このような女性特有の健康にも関連してきます。

もっと政界、官界、財界の動きに関心を持たねばと考えているこのごろです。

## 4. きらめきプロジェクト構成

### きらめきプロジェクト組織図



### スタッフ紹介

#### 運営スタッフ

顧問	樗木 晶子	福岡歯科大学医科歯科総合病院健診センター長、専門：循環器内科
プログラム責任者	加藤 聖子	医学研究院 生殖病態生理学 教授
副プログラム責任者	落合 正行	医学研究院 周産期・小児医療学 准教授
副プログラム責任者	宮田 潤子	医学研究院保健学部門 講師、専門：小児外科
副プログラム責任者	永吉 絹子	消化管外科 (I) 助教
副プログラム責任者	清水 真弓	口腔画像診断科 講師
副プログラム責任者	大山 順子	顔面口腔外科 講師

#### 所属スタッフ（令和6年度に所属したメンバー）

医師 15 名

第二内科	北村 環	月・木	5h( 9:30~15:30)
第二内科	大和 いくみ	月・金	3h( 9:00~12:00)
第三内科	福元 多鶴	火・水	6h( 9:00~16:00)

心療内科	西原 智恵	火・木	5h(11:00～17:00)
脳神経内科	永田 諭	水・木・金	5h(10:00～15:00)
産科婦人科	稲村 真世	金	4h( 9:00～13:00)
産科婦人科	横田 奈津子	木	5h( 9:00～15:00)
第一外科	久野 恭子	月・水・金	5h( 9:00～15:00)
皮膚科	大野 麻衣子	火・金	6h( 9:00～16:00)
皮膚科	膳所 菜保子	月・木・金	4h( 8:30～12:30)
皮膚科	原 茉実	月・火・木	4h( 8:30～13:30)
泌尿器科	牧 知子	月・水	4h(13:00～17:00)
眼科	関 瑛子	木・金	7h( 9:00～17:00)
臨床教育研修センター	緒方 久修	水	4h(13:15～17:15)
別府病院 内科	森 麻里母	月・火・水	6h( 9:30～16:30)

歯科医師 6名

顔面口腔外科	安藤 紗帆	月・金	5h(10:00～16:00)
顔面口腔外科	泉谷 真理子	水・木	5h(10:00～16:00)
顔面口腔外科	吉濱 るみ	月・火・水	4h(10:00～15:00)
歯科麻酔科	太田 百合子	月・火・木	4h( 8:00～12:00)
高齢者歯科・全身管理歯科	桐石 祥果	月・木	6h(10:00～17:00)
高齢者歯科・全身管理歯科	實松 愛華	木・金	5h(10:00～16:00)

事務局スタッフ 1名

事務職員	西 元子	月～金	
------	------	-----	--

# 実施状況

## 1. ジェンダー学講義

きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、医学部・歯学部の学生に対し、医療人としてのプロフェッション教育を行っています。

### 医学部医学科・生命科学科 ジェンダー学講義

ジェンダーに関する講義では、講師の先生方がそれぞれのご専門の観点から実体験なども交えてお話をされました。

対象：医学部医学科・生命科学科 2年 121名

日時：令和6年4月15日（月）2、3限目

講師：九州大学病院臨床教育研修センター

きらめきプロジェクト

プログラム責任者 加藤 聖子 先生

顧問 樗木 晶子 先生



加藤 聖子先生



樗木 晶子先生

### 学生の感想（抜粋）

- \* 人は一人一人個性を大切に自分で自分に合う仕事をしていけばいいのだと考えることができました。
- \* 医療従事者の数が足りない中で環境を整え男女が同じように働けるようになることはとても大事なことだと感じた。
- \* 将来はジェンダー学がなくなるほど男性医師と女性医師の格差がなくなるように私も努力をしたいと思いました。
- \* 医師の働き方改革が正しい形で実現されていくことを願います。
- \* 性別役割分担意識がなくなり、男性も女性も育児を分担して担うことが当たり前になる社会に近づくには、性を女性、男性、それ以外の LGBT の人々と分けて考えるのではなく、性とはスペクトラムだと捉えるという考えがとても役立つと思った。
- \* 私も無意識に持っていてしまっている固定観念や無意識にしてしまっている女性差別等に対して自身を客観視することで見直していきたいと思いました。
- \* 男性女性関係なく互いにサポートしあえるようになるためにはまず自分が周りの人の支えになれるように相手を理解する必要があると思う。
- \* HPV のワクチンの重要性についてあまり知識がなかったのでとてもいい学びになりました。
- \* ジェンダー学というのは社会における男女の差をなるべく縮めていく感じのものだと思っていたが、違いを正しく認識することが大切で、対立概念ではなく連続スペクトルだという考え方はためになった。
- \* 性別にこだわらない時代であっても体の構造の違いがあること、そしてお互いに協力することの重要性について学ぶことができました。



## 歯学総論 キャリア・ジェンダーに関する講義

歯学部2年生を対象に、九州大学病院口腔画像診断科講師できらめきプロジェクト副プログラム責任者（歯科部門統括）である清水 真弓 先生が「歯科医師としてのキャリアパスと男女共同参画」をテーマにTBL講義を行いました。

対象：歯学部2年 55名

日時：令和6年11月18日（月）3,4限目

講師：九州大学病院 口腔画像診断科 講師

きらめきプロジェクト副プログラム責任者 清水 真弓 先生

講義では、まず事前課題について解説を行い、理解を深めました。

次に応用課題として、自分の理想とするライフプランや暮らし方を各自で考え、それをグループ毎に話し合っまとめる作業を行いました。

今回の課題は自分と仮のパートナーとの「理想のライフプラン」「ふたりの家事分担」を考えるととても具体的なものでした。将来のことを考えることが少ない学生たちにとってはなかなか難しい問題だったのではと思います。

この講義は歯学部学生交流会での桑鶴先生の講義から繋がるもので、学生たちは自分たちの将来を考える貴重な機会となりました。

歯学部学生交流会と今回のキャリアパスに関する講義を通して、卒業後の自分、そして自分がどのような未来を進むのかを考える時間になったと思います。



### 学生の感想（抜粋）

- \* 男女関係なく自分で生きていける能力を身につけなければならない。男女共同参画社会の実現に向けて私たちが未来を作っていかなければならない。
- \* この先、自分の思い描いた人生になるかどうかわからないけど、自分が正しいと思う道にむかって勉強をしていきたいと思います。
- \* 女性男性関わらず、育児休業や時短勤務ができる制度があるところであれば、子供を産んだとしても子供と関わることも歯科医師として働くこともどちらも諦めずにできるなと感じました。
- \* 今日のグループワークでは、みんなそれぞれ思い描いている人生が全く異なっていて興味深かったです。人生のパートナーを見つけるとしたら、価値観のすり合わせが必要だなと思いました。
- \* ジェンダー問題に関しては、現在だけでなく、将来にとっても解決しなければならない問題の1つであると私は考えるので、今回の講義や1年の課題協学科目でのテーマの講義を聞いたことにより、私たちも解決の手助けをしていきたいと思った。
- \* それぞれの専門医のことや歯科医師の勤務先について調べた上で将来を見据えたライフプランを考えたい。またライフプランを講義で考えることを通して、一年という時間の大切さを改めて感じた。より一層勉学に精を出し、留年せず進級できるようにしていきたい。

## 2. 性差医学入門講義

対象：医学部医学科・生命科学科2年生 23名

日時・講師：

令和6年7月2日（火）4時限目

九州大学病院乳腺外科 診療教授 久保真先生

令和6年7月11日（木）3時限目

九州大学大学院医学研究院保健学部門 講師

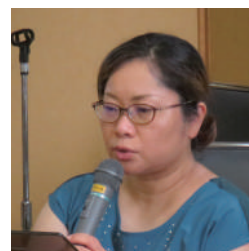
きらめきプロジェクト副プログラム責任者 宮田潤子先生



久保真先生

久保先生はがんと遺伝医療の観点から具体的なデータ等を示しながらお話をされ、宮田先生は小児期の病気による性の問題をいくつかの症例を交えながらお話されました。

学生たちは、病気による性の問題や、性差と病気との関係を学び、性差医療の必要性と重要性について自分なりに考えるよい機会となりました。



宮田潤子先生

### 学生の感想（抜粋）

- \* 性別、より広く捉えれば個人によっても、罹りやすい病気や治療方法が異なることが当たり前理解され、1人ひとりがより適した医療行為を受け、健康に過ごすことができる環境になればよいと思った。
- \* ジェンダー平等を尊重しつつも、現実存在する男女の生物学的な差異も考慮する必要があると思った。
- \* 性差医療は総合医学であり、臓器別医学ではない臓器横断的医学となる。
- \* 性差医療を実現することは全人的な医療を行うことにつながる。
- \* 性差医療の概念を知っておくことで、疾患やその治療法などへの理解度がかなり変わってくるように感じた。
- \* 命のために必要な治療を行い、患者のメンタルをケアし普通の生活に戻ることができるよう、その後の問題にも寄り添うことが大切だと思った。
- \* 病気により体に自信のない女性のための製品などをお伝えし、日常生活の幸福度が上がるような支援をしていけたらと思った。
- \* 成長後の精神的な悩みなどの問題について、患者やその家族にきちんと説明し、寄り添ったアフターケアをする責任が医師にはあると思う。
- \* 病院内の他の子どもや時には病院外の子どもと関わることで、様々な人がいるということを知ってあげたい。
- \* 患者さんが身近に感じてくれるような医師になることを意識し、患者さんの悩みや気持ちを小さなことでも話しやすい環境をつくっていきたい。



### 3. 令和6年度学生交流会

学生のキャリア形成における意識啓発やロールモデルの提供を目的として、医学部、歯学部それぞれで学生交流会を毎年開催しています。

#### 令和6年度医学部学生交流会

医学部学生交流会は福岡県医師会と共催して行い、副会長 一宮 仁 先生と理事 田中 眞紀 先生にお越しいただきました。この日は開催時間に合わせて、美味しいランチをいただきながらの会となりました。

対象：九州大学医学部 学生

日時：令和6年4月15日（月）12:00～12:55

会場：九州大学病院キャンパス

ウエストウィング棟2階 臨床小講堂2

講師：福岡県医師会 副会長 一宮 仁 先生

理事 田中 眞紀 先生



一宮 仁 先生



田中 眞紀 先生

アンケート結果や多くの資料を示しながら、会場いっぱいに参加した学生に向けて、とてもわかりやすく貴重なお話をしてくださいました。

#### 学生の感想（抜粋）

- \* 働き方改革について知ることが出来てとても有意義な時間でした。
- \* 田中先生のお話が興味深かったです。今後医師として働く上で、常に10年後どうありたいかを考えながら学び続けていきたいと思います。
- \* 聞いたことのない話だったので非常に興味深い話だった。
- \* 今回とてもためになる話が聞けて、モチベーションの向上にも役立ちました。ありがとうございました。
- \* 現場を間近に感じられる非常に良い機会になりました。
- \* キャリアについて具体的にイメージできたので良かったです。
- \* 将来について考えるきっかけになりました。



## 令和6年度歯学部学生交流会

歯学部学生交流会では九州大学歯学部同窓会会長 久保 秀郎先生、きらめきプロジェクト OG で鳥谷歯科医院 桑鶴 利香先生をお迎えしました。

対象：九州大学歯学部2年生

日時：令和6年10月28日(月) 3,4限目

講師：鳥谷歯科医院(きらめきOG) 桑鶴 利香 先生

学生交流会の最初に、九州大学歯学部同窓会会長 久保 秀郎先生から、学生たちに励ましのお言葉をいただきました。また、今年度発足した歯学部学生後援会をご紹介いただきました。同窓会のさまざまな活動に加えて、学生後援会の存在は学生たちの大きな拠り所になると思います。

桑鶴先生は「歯科医師として働くことー未来予想図を描くには?ー」をテーマに、歯科医師のキャリアプラン、ライフプラン、マネープランについて、多くのデータや資料またご自身の経験などを基にお話しされました。先生のお言葉にはとても力があり、学生たちは先生のお話にどんどん引き込まれていました。特に「楽しんで仕事をする」として「歯科医師としての技術だけではなく、様々なことをずっと学び続けることが大切」であるということが印象的でした。

卒業後の自分の将来に様々な理想を持つ学生たちは“現実”について聞くことができ、とても勉強になったことと思います。



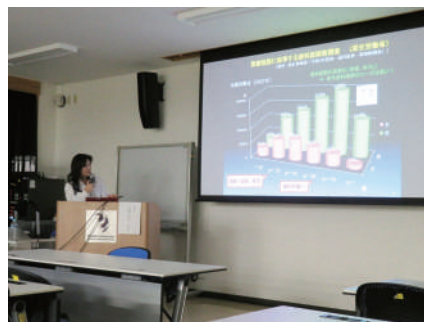
久保 秀郎 先生



桑鶴 利香 先生

### 学生の感想(抜粋)

- \*これから何を学習し、何科に進むのか、どのような歯科医師になりたいのかといった自分の人生やライフプラン、キャリアプランを見つめ直すとても良い機会となりました。
- \*歯科医師が今後求められるというお話や私たち九州大学歯学部の学生を支援したいと頑張っている方々がいるというお話を聞いて、とても胸が熱くなりました。
- \*何か特定の分野に対して強みがあると働きやすかったり多様な働き方が可能になると感じたので、自分も大学院に行って自分の武器と言えるものを身につけていきたいと思いました。
- \*最も印象に残ったのは誰かのために働くということが幸せにつながるということです。
- \*AIの活用や歯科治療の最先端の機器を用いた治療により、今まで取れなかった膨大な量の口腔内のデータを用いて、新たな歯科治療に役立つものを開発するということが一番印象に残った。
- \*歯科医師は感謝の言葉をかけられる仕事、コツコツと知識・技術を得る必要があるけれど、自分の努力を生かせる仕事、人相手の仕事、人の気持ちや訴えをくみ取って、治療してよかったと思ってもらうような仕事と聞いて今まで私は歯科医師ってなんかマニアックであり楽しくなさそうだと思っていたのでそのイメージを少し変えることができた。
- \*仕事ばかりにならないように自分の人生も楽しめるようにしたいなと思いましたし、そこのバランスを考えて心身共に元気な状態を維持したいなと思いました。これから自分の歯科医師の人生が少し楽しみになりました。そのためにしっかりと勉強しようと思いました。
- \*「ひとつスキルがあれば活躍できる」というお言葉が印象に残っている。



## 4. 令和6年度九州大学馬出地区4部局合同男女参画FD・九州大学病院臨床研修センター きらめきプロジェクト講演会

令和6年度講演会は、福岡市副市長である荒瀬 泰子 先生を演者としてお招きし、九州大学馬出地区4部局合同男女参画FDと合同で開催しました。講師である荒瀬 泰子 先生は1978年に九州大学医学部を卒業されました。2015年4月から現在まで3期にわたり福岡市副市長として活躍されています。



荒瀬 泰子 先生

対 象：九州大学教職員・医療従事者

日 時：令和6年9月11日（水）18:00～19:00

会 場：九州大学病院キャンパス アイン薬局九大南店2階大会議室

講 師：福岡市副市長 荒瀬 泰子 先生

講演では、福岡市の施策である「福岡100」をご紹介いただきました。

“「福岡100」では、なぜ、そしてどのように様々なプロジェクトに取り組まれているのか”を多くのデータや資料を示しながら、わかりやすくお話しされました。

「福岡100」の取組の一つであり、認知症フレンドリーシティを目指すために重要な「ユマニチュード®」という認知症コミュニケーション・ケア技法についてのお話は大変興味深いものでした。福岡市では、「ユマニチュード」を広めるために、市内の小学生、中学生や地域の皆さん、消防・救命救急に関わる方々などに対して、様々な講座を行っているとのことでした。

荒瀬先生は、状況やデータを分析し、将来を見据えて施策を立てることが大切であるとおっしゃいました。また、情報やデータ分析等様々な場面において、本学との連携にも期待されていました。

最後に語られた「これからもみんなが生き生きと優しく、尊敬の気持ちを持って暮らせるまちをつくっていきたい」とのお気持ちに深く感銘を受けました。

当日は多くの皆様にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

開会挨拶  
九州大学大学院  
歯学研究院院長  
西村 英紀 先生



主催者挨拶  
九州大学病院  
臨床教育研修センター長  
新納 宏昭 先生



司会進行  
きらめきプロジェクト  
プログラム責任者  
加藤 聖子 先生



来賓ご挨拶  
九州大学  
神崎 智子 理事



閉会挨拶  
きらめきプロジェクト  
顧問 櫻木 晶子 先生

## 講演会の感想・コメント等

- \* 子供の認知症教育が始まっていることは初耳でした。
- \* 福岡市の認知症対策について、多くのデータを提示していただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。データも利用できそうですので、機会がありましたら利用したいと思います。
- \* データに基づいた prediction (予測) やそれに対する方策等を進めていって、市政の内容が分かりやすく楽しい講演内容でした。60分は短いですね。
- \* 先を見て施策を立てることが非常に参考になった。
- \* データの活用に興味があります。
- \* 福岡市で進めている施策の一部を知ることができた。ほかの部分にも興味を抱きました。市民として聞く機会を探してみようと思います。
- \* 福岡市が認知症のために様々なことを行っていることを知る機会を持ててよかった。自分の両親が高齢なので、体だけでなく心を健康のままでいてほしいと思っているので、とても参考になった。
- \* 高齢化社会に伴い、今後増加していくであろう認知症の方々をサポートするための取り組みを福岡市がしっかりとされていることがよくわかりました。
- \* 今後の高齢化社会における指針の参考になりました。
- \* 福岡市の取り組みを理解することができました。データに基づいた施策は市民のよりよい生活に効率よく貢献するものと思われます。
- \* とてもよかった。ユマニチュードの実際がよくわかりました。
- \* 認知症ケアとして注目を集める“ユマニチュード”とそれを情報学とからめて科学的エビデンスを集めようとする試みは画期的なことだと思った。わかりやすくそれを説明していただき、とても感銘を受けた。
- \* 福岡市の取り組みがよくわかった。他の町ではどの程度取り組みがあるか、あるいは効果が他の町とどのように違うか興味がある。
- \* 先生のようにイキイキと知的な女性になれたらと思います。今日はありがとうございました。
- \* 歯に対する子供のころからのアプローチのように、生活習慣病に対する取り組みも発症前段階から進んでいくといいと思いました。
- \* 福岡市は日本全国を見渡しても数少ない“発展を続ける街”である。人口減少せず、成長を続ける理由が、このようなユマニチュードの試みにあるのかなと今回実感した。



## 5. 令和6年度スタッフ発表会

スタッフ一人一人が、きらめきプロジェクトにおける1年間の活動の報告と紹介を行いました。きらめきプロジェクトで働くことの意義を自他ともに改めて確認することができ、今後の本プロジェクトの在り方を考える機会となりました。

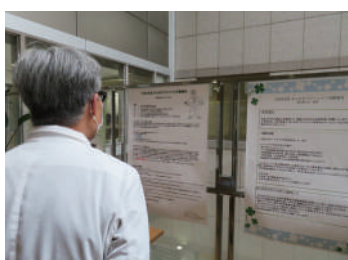
また、男女共同参画に取り組むプロジェクトの活動が少しでも多くの方に伝わり、医療に携わる者が幸せに働き続けられることで、患者様へのより良い医療の提供へと繋がるものと考えています。

日時：令和7年3月5日（水）～7日（金）11:00～16:00

会場：九州大学病院 外来診療棟 2階ギャラリー

発表形式：ポスター掲示形式

※公開発表のため、一般の方を含めて誰でも参加可能。



**九州大学病院きらめきプロジェクト  
令和6年度スタッフ発表会**

九州大学病院きらめきプロジェクト所属のスタッフが1年間の活動をポスターでご報告します。  
仕事とプライベートの両立をどのようにしてきたかなど医師、歯科医師たちの奮闘ぶりをご覧ください。

日時：令和7年 **3月5日(水)～7日(金)**  
※5日のみ、11:00～16:00の間スタッフが常駐します  
会場：九州大学病院外来診療棟 2階ギャラリー

一般の方もお気軽にお立ち寄りください。  
開催中でも、本会場は通常通り、  
休憩スペースとしてご利用いただけます～

【主催】九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト  
TEL/FAX：092-642-5203  
E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

### 【医師】

第二内科	北村 環
第三内科	福元 多鶴
心療内科	西原 智恵
脳神経内科	永田 諭
産科婦人科	横田 奈津子
第一外科	久野 恭子
皮膚科	大野 麻衣子
皮膚科	膳所 菜保子
皮膚科	原 茉実
泌尿器科	牧 知子
眼科	関 瑛子
臨床教育研修センター	緒方 久修

### 【歯科医師】

顔面口腔外科	安藤 紗帆
顔面口腔外科	泉谷 真理子
歯科麻酔科	太田 百合子
高齢者歯科・全身管理歯科	桐石 祥果
高齢者歯科・全身管理歯科	寛松 愛華



# 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

顔面口腔外科 泉谷 真理子

## 自己紹介

卒後15年目の歯科医師です。

結婚を機に2019年から休職し、2児を出産しました。子ども達がまだ幼く手がかかるうえ夫は多忙、両親は遠方で頼れず、コロナの影響もあり、しばらくの間は復職を諦めておりましたが、きらめきプロジェクトに所属していた医局同期からの話を聞き、本プロジェクトでの復職を希望し、長女の幼稚園の預かり保育が可能となった2023年10月より参加させていただきましました。昨年度の半年間は週1回、本年度からは週2回に勤務日を増やし、九州大学病院顔面口腔外科の外来で勤務しております。

## 略歴

2010年 鹿児島大学卒業、歯科医師免許取得  
2010～2011年 九州大学病院にて初期臨床研修  
2011～2014年 九州大学病院顔面口腔外科へ入局  
大学院修了、博士号(歯学)取得  
2015年 九州大学病院顔面口腔外科 医員  
口腔外科認定医取得  
2016～2017年 九州中央病院歯科口腔外科にて勤務  
2018年 九州大学病院顔面口腔外科 医員  
結婚(夫は沖縄で単身赴任)  
2019年 休職(月2回外勤)  
2020年 長女出産  
2022年 次女出産  
2023年10月～ きらめきプロジェクト参加

## 家族構成

夫 大学病院の救急医。シフト制勤務。休日や夜間でも仕事に出かけることが多い。激務だが家族との時間も大切に考えてくれている。  
長女(4歳) 幼稚園年少。プリンセスに憧れる女の子。5月より幼稚園の課外授業のピアノ教室、6月よりクラシックバレエを習い始めた。  
次女(2歳) 普段は自宅保育。好奇心旺盛で元気な女の子。姉の影響を受けやすく、プリンセスとおままごとが大好き。



良い刺激になればと時間を見つけてはいろいろなところへ出かけています。

## 勤務

週2回(水・木) 顔面口腔外科外来

主に抜歯、嚢胞性疾患、顎関節症、炎症、粘膜疾患、顎骨壊死等の診療に従事しています。今年度は昨年よりも困難な症例を経験することが増え、大変学びの多い一年でした。

月2回AM 周術期口腔ケア外来

手術前後の患者さんの口腔ケアを行っています。

## 1日のスケジュール

6時 起床  
8時 長女を幼稚園バス停まで送り、  
次女を近所の一時預かり施設へ預け出勤。  
9時30分 勤務開始  
17時 勤務終了  
18時 次女、長女それぞれの園へお迎え  
18時30分 帰宅  
19時 夕食・入浴  
21時 寝かしつけ  
明日の準備  
23時 就寝



## 1年間を振り返って

もともと3年半のブランクがありましたが、今年度は少しずつ診療の勤を取り戻してきたかなという実感がありました。昨年度よりも難易度の高い智歯抜歯や粘液嚢胞摘出、歯根端切除術等の小手術を行う機会に恵まれ大変学びの多く、楽しい一年間でした。

それと同時に仕事と育児の両立に苦戦した一年でもありましたが、顔面口腔外科はとても温かい雰囲気のある医局で育児をしながら働くことに理解のある医局でもあるため、子どもの病気や私自身の体調不良で勤務が出来なかったことがあり、心苦しく感じることもありましたが、周囲の先生方が快く代診を引き受けてくださり、また、「お子さん大丈夫?」「体調が悪い時は無理をしないでね。」など温かい言葉をかけてくださり、大変有り難かったです。

また同じように育児をしながらもバリバリ働く周囲の先生方を見て、私ももっと頑張ろうとパワーをもらうことができました。

きらめきプロジェクトに参加させていただいて、復職のチャンスをいただけたことに感謝しております。

本当にありがとうございました。

## 「令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告」

臨床教育研修センター 内科医師

研究留学から帰国後、研究を継続しております。  
介護と仕事の両立を目指して、きらめきプロジェクトに参加させていただきました。

### 略歴:

2006年3月 大学院修了(医学博士)  
2007年4月 九州大学病院 医員  
2007年9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF) 研究員  
2008年9月 カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD) 研究員  
2014年5月より 九州大学病院先端分子細胞治療科勤務  
2020年4月より きらめきプロジェクト所属

### 研究:

大学院から留学中にかけて、癌の発生に関する研究をおこなっていました。  
帰国後、先端分子細胞治療科に所属し癌治療に関する研究を進めておりました。  
きらめきプロジェクトに参加させていただけたおかげで、臨床・研究を継続でき発展させることができました。

### 最近の実績:

2022年4月に採択されたJSPS科学研究費基盤Cの研究を継続しました。  
2023年4月 日本肝臓学会専門医を更新。  
2023年9月 Bio Clinica の topics に研究内容が掲載されました。  
(Bio Clinica 38 (10), 2023(891) P.73)  
2023年10月 日本遺伝子細胞治療学会認定医を取得。  
2023年12月 米国特許が登録されました。  
2024年 1月 日本再生医療学会認定医を更新しました。  
2024年10月 論文がAnticancer Research誌にアクセプトされました。  
(Anticancer Res 44, 5215-5218, 2024)  
2024年12月 日本肝臓学会東部会で演題を発表しました。

### (これまでの研究内容)

#### 腫瘍溶解性ウイルス療法の消化器がん、膵がんへの応用について

腫瘍溶解性ウイルスとは、がん細胞に感染してこれを細胞死させるウイルスである。ウイルスの感染したがん細胞は融解し、感染性を持つ新たなウイルス粒子を放出する。腫瘍溶解性ウイルスは腫瘍細胞を直接死に至らしめるのみならず、宿主の抗腫瘍免疫活性を上昇させることが報告されている。抗腫瘍薬としてのウイルスの可能性は 20 世紀の初頭から模索され始めた。当初は未精製の新規ウイルスが用いられたが、1960 年代になるとウイルスを厳選し精製して使用する様になった。アデノウイルス、レオウイルス、麻疹ウイルス、単純ヘルペスウイルスなどの多くのウイルスの腫瘍溶解性が報告されている。超音波内視鏡 (EUS) 下での投与が可能な膵がんも腫瘍溶解性ウイルス療法の適応と考えられている。最近、筆者らはピコルナウイルス科に属するウイルスに腫瘍溶解性があることを見出した。そのうち、コクサッキーウイルス A11 (CVA11) は大腸がんに対して有効であり、また、コクサッキーウイルス B3 (CVB3) は膵癌に対して有効であることが明らかとなり、報告した。

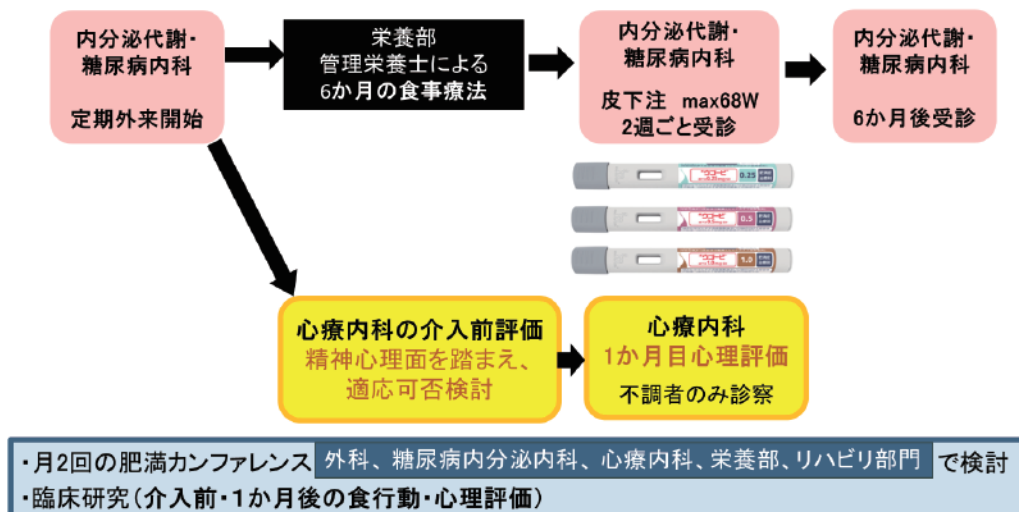
この一年を通して専門医としての診療、研究の継続を行うことができました。  
きらめきプロジェクトに参加させていただき、このような実り多き一年となりましたことを心より感謝申し上げます。

# 「非常勤学術研究員として臨床研究に携わって」 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告 心療内科医師

卒後19年目の医師です。これまで大学病院の病棟や関連病院で、内科医・心療内科医として勤務してきました。二人の子供（現在小学生）を出産後は大学院に進学し、肥満症に関する臨床研究を行いました。

昨年度より、大学病院の多職種から成る肥満チームにおいて、肥満症に対して減量介入を行う前の、心理評価の役割を担っています。肥満症は心身症の側面も大きく、心理面を考慮した上で減量方針を決めることが重要とされています。当院で長年外科・内科の先生方との共同の診療体制が確立されていることは臨床的に意義深く、また研究の点からも国内外に発信する知見を得る環境となっています。本年度は特に、ウゴービ（セマグルチド皮下注）の肥満症に対する保険適応が始まったことで、ウゴービ使用前の患者様を心療内科外来で多く診察させていただきました。介入が始まる前に食行動・心理面を診させてもらい、介入による体調変化があっても気持ちのつらさが出ることがないかを予測し、内科の先生方と安全な治療方針を検討しています。研究としても、肥満症治療薬としては新薬であるウゴービ介入前に精神心理面の対面評価を行なえる体制は国内でも珍しく、介入開始前後に心理テストを各種行い、介入前の心理検査所見で治療適用や治療効果を予測することを目指しています。

## 九州大学病院における肥満症に対するセマグルチド皮下注治療



本年度は数十例以上のウゴービ導入予定症例の評価を行いました。来年度は九大伊都キャンパスの伊都診療所所長職に就くこととなりました。今後は学生・職員の心身面の健康管理に役割を果たしながら、可能な限り大学病院に出向し肥満研究を続けていきたいと考えています。本プロジェクトで臨床・研究をつなげることができ、とても意義深かったと感じています。

## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

臨床・腫瘍外科 医師 (卒後12年目)

### 自己紹介

卒後12年目の外科医師です。5歳の長女と1歳の長男の育児中です。  
夫は大学病院勤務の医師です。  
大学院1年目に第一子を出産、5年目で第二子を出産し、第二子が4ヶ月かつ5年のブランク後の臨床復帰であったため、常勤復帰は難しいと考え、本年度はきらめきプロジェクトに参加させていただきました。

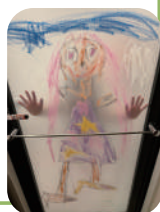
### 経歴

卒後年数	1-2	3-6	7-11	12
勤務等	初期研修	関連病院勤務 外科専門医 取得	大学院 消化器外科 専門医取得	臨床復帰 きらめきプロジェクト 学位取得
ライフイベント	結婚		第一子出産	第二子出産

### 活動内容

月水金 (9-15時): 手術手伝い  
木: 外勤 (外来)

11例の執刀の機会をいただきました  
胆嚢摘出術 開腹・腹腔鏡各1件  
腹腔鏡下幽門側胃切除術 2件  
腹腔鏡下結腸切除術 2件  
肝外胆管切除術 1件  
肝部分切除術 1件  
イレウス解除術 2件  
人工肛門閉鎖術 1件



### 研究

大学院では家族性大腸腺腫症の大腸癌発癌過程における腫瘍微小環境の変化についての研究をしていました。

第二子出産後の産休中に論文がアクセプトされ、きらめきプロジェクト所属中に、学位を取得しました。



### ～1年を振り返って～

子供が小さく、また久しぶりの臨床復帰であったため、不安が大きい中でのスタートでしたが、無理のないペースで手術に参加させていただき、少しずつ感覚を取り戻すことができました。0歳の長男の発熱で保育園から呼び出され、早退や欠勤させていただくことも多く、今年はこの勤務形態で非常に助かりました。

医局でも育児中の女性医師が増加しており、産休・育休から復帰する際のひとつの選択肢としてお勧めしたいです。

主治医として責任をもって患者さんの診療に携わりたいという思いが強くなり、来年度からは関連病院で常勤として働くことにいたしました。今後は手術手技の向上や資格取得を目指して精進します。

最後に、サポートしてくださっている医局の先生方、きらめきプロジェクトの先生方やスタッフの方々に心から感謝申し上げます。

## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告 皮膚科 医師

### はじめに

きらめきプロジェクト活動2年目の皮膚科医です。  
参加のきっかけは大学院在学中にコロナ禍に直面し  
仕事と育児の両立が難しくなり離職を考えましたが  
少しペースダウンながらも仕事を続けたいと思った  
ことです。

### 活動日

月：大学病院での外来診療  
火：(e-learningやメール対応など)  
水：クリニックでの外来診療、カンファレンス  
木：大学病院での外来診療、カンファレンス  
金：大学病院での外来診療

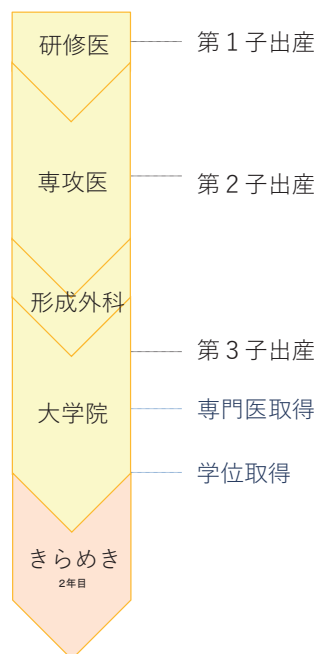
### きらめきプロジェクトに参加して

仕事と育児の両立は綱渡りの毎日で悩みは尽きませんが、昨年度よりきらめきプロジェクトに参加し  
微力ながら臨床復帰することができました。今年は外来診療に携わりながら、学会や講演会に参加し  
女性医師支援や働き方改革が進みロングランで働ける環境整備や意識改革を肌で実感することができ  
た1年でした。子供が幼い頃は病児保育との両立に悩んでいましたが、子供の成長とともに送迎に追  
われ、体調管理と時間のマネージメントに頭をフル回転させる日々です。コロナ禍で一旦離職を考え  
た私ですが、きらめきプロジェクトをはじめ、沢山の方々のサポートのおかげで復職できたことを心  
より感謝しています。フルタイムで働く同僚を見て焦る日々ですが、子供と向き合える時間を大切に  
しながらこれからも少しずつ自分のペースで前に進めたらいいなと思っています。

### 最後に

きらめきプロジェクトを支えて下さるスタッフの皆様、大学職員の皆様をはじめ  
いつも近くで支えてくれる皆様にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。  
診療で携わる患者様にも元気や勇気をもらうことも多く、少しでも恩返しができるよう  
これからも日々精進して参りたいと思います。

### 経歴



## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

### 泌尿器科 医師

#### 自己紹介

卒後15年目の泌尿器科医です  
令和5年度よりきらめきプロジェクトに所属しております

#### 略歴

2010年4月～2012年3月 九州大学病院 初期研修医  
2012年4月～2015年3月 泌尿器科入局 関連病院をローテート(長男出産)  
2015年4月～2019年3月 大学院 (次男出産)  
2019年4月～2022年3月 関連病院勤務(フルタイム、時短勤務)  
2023年4月～ きらめきプロジェクト参加

#### 家族構成

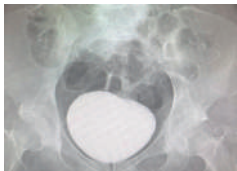
夫:内科医(市外の病院に勤務)  
息子①:小学5年生(恐竜大好き)  
息子②:小学2年生(負けず嫌い)

二人の性格は正反対で育て方には日々頭を悩まされています。  
平日は夫がほとんど家にいないため、こどもたちとの時間が確保される今の働き方に感謝しています。

#### 勤務内容

週2回 大学で排尿外来を担当  
患者さんそれぞれに適した排尿管理方法の選択、排尿状態の確認などが主な仕事内容  
尿流動態検査を施行  
大学病院以外は関連病院に勤務(主に外来業務)

#### 尿流動態検査



膀胱造影

膀胱変形・膀胱尿管逆流の有無を評価



膀胱内圧測定



#### きらめきプロジェクトに参加して・・・

2023年4月からきらめきプロジェクトに参加させていただき、仕事と育児をともに頑張ることができています。このプロジェクトに参加して2年目になりますが、平日はこどもの習い事の送り迎えや学校行事への参加がしやすくなりました。

#### 今後の抱負

大学院で排尿分野の研究を行い、現在は大学病院の排尿外来を担当しております。  
大学では貴重な症例を経験することもでき、日々勉強させていただいております。泌尿器科は女性医師の割合が少なく、そのニーズを感じることも増えてきました。必要とされる場所できちんと役割を果たせるように1日1日を大切に過ごしていきたいです。

# 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

## 皮膚科 原 茉実

### 【自己紹介】

卒後8年目の皮膚科医師です。  
2024年度は1年間の育休の予定でしたが、家事・育児に少し慣れてきて、早めに復職したいなあと思っていた頃、ちょうどきらめきプロジェクトのお話を頂き、2024年10月より復職させていただくこととなりました。

来春は1歳の4月となるため保活を心配していましたが、早期復職により、第1希望の保育園に入園することができました★

### 【勤務状況】

月曜日：AM 大学 外来処置  
火曜日：AM 市中病院非常勤  
水曜日：PM 市中病院非常勤  
木曜日：AM 大学 外来処置  
金曜日：AM 大学 外来処置・急患当番  
PM 市中病院非常勤

空き時間は、研究や学会発表の準備のほか、自分や子どもの通院・事務手続き等に当てていました。また、久しぶりの友達や家族/親戚と会う時間も十分に取ることができ、とても充実していました！！

### 【まとめ&今後の目標】

復帰後、子どもから風邪・手足口病・コロナなどをもらって一通りかかり、最初の3か月は本調子でない日々が続きました。低音障害難聴にも罹患してしまいしばらく通院が必要だったため、平日に通院の時間がとれたのはとても助かりました。そのほか、研究や論文作成など、今までは診療に追われてできなかったものを充実させることもできましたし、自分自身のこと・仕事・家庭を、よいバランスで保つことができたと思います。

残念ながら、きらめきプロジェクトでの勤務は皮膚科専門医取得のための研修時間に算定されず、4月からは大学でフルタイムでの復帰予定としています。半年間のきらめきプロジェクトでの経験があったからこそ、スムーズにフルタイム復帰ができるのだと感謝しております。ありがとうございました。

### 【経歴】

2017年 山口大学医学部医学科卒業  
2017年 九州中央病院(初期研修1年目)  
2018年 九州大学病院(初期研修2年目)  
2019年 九州大学皮膚科 入局  
2020年 福岡歯科大学医科歯科総合病院  
2021年 九州大学病院  
2023年 原土井病院  
同年、長女出産  
2024年10月きらめきプロジェクト所属

### 【家族構成】

夫：内科開業医  
娘：1歳(保育園通園中)

### 【1日のスケジュール】

6:30 起床 子どもの朝食  
7:00 夫と娘を送り出し  
洗濯・お風呂掃除と予約  
ゴミ出し・掃除機・炊飯予約  
夕食用の食材準備 などなど家事  
7:50 出発  
8:30 勤務開始  
  
13:30～17:00 フリー  
  
17:30 子どもの迎え  
18:30 子どもと入浴  
19:30 夕食  
20:00 片づけ・子どもの荷物準備  
絵本・おもちゃ遊び  
21:00 寝かしつけ開始  
22:00 一緒に寝落ち or 残った家事  
or 学会発表準備 など

日中～の時間を有意義に過ごせるよう、朝できる限りの家事を終わらせてから出勤しています！

# 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

## 病態機能内科科学 糖尿病研究室 北村 環

### ★自己紹介

卒後19年目の内科系医師です。  
きらめきプロジェクトには長男出産後も1年間お世話なり、今年で4年目です。  
普段は、夫と長男、長女、次女の5人家族で毎日慌ただしくもにぎやかに毎日を送っています。

### ★家族構成

夫:会社員  
長男: 8歳、小2  
長女: 6歳、小1  
次女: 4歳、幼稚園年少

### ★勤務について

月:九州大学病院 新患外来  
火:市中病院 糖尿病外来  
水:市中病院 糖尿病と内分泌疾患の再来  
木:九州大学病院 再来

### ★1年間を振り返って

この一年は九大病院、市中病院で糖尿病、甲状腺、その他の内分泌疾患の外来診療にあたりました。専門分野、専門以外の分野においてもまだまだ勉強が必要だと痛感します。

非常勤で勤務しながら、家事や子供の相手に奮闘する毎日ですが、男性・女性問わず、常勤で勤務されている先生方を尊敬するとともに、時短勤務であることに後ろめたさを感じることもあります。しかし、日々の生活の中で子供と向き合っていないと思う瞬間も多々あり、もうしばらくは現在の勤務スタイルで医療に携わっていきたいと考えています。

家族やサポートして下さる医局の先生方への感謝を忘れずに、これからも自己研鑽に励みたいと思います。

### ★略歴・ライフイベント

2006年～浜の町病院で初期研修医  
2008年～聖マリア病院 糖尿病内分泌内科  
2009年～九州中央病院 糖尿病内分泌内科  
2011年 内科認定医取得  
2012年～九州大学大学院入学  
2013年 糖尿病内科専門医取得  
2015年 結婚  
2016年 第1子(長男)出産  
2017年 きらめきプロジェクト所属  
2018年 第2子(長女)出産  
2019年 九州中央病院に非常勤勤務  
2020年 第3子(次女)出産  
2021年 九州中央病院で非常勤勤務  
2022年～きらめきプロジェクト所属

### ★大学勤務日のタイムスケジュール

5:30～6:00 起床、子供の弁当や朝食準備  
6:30～7:00 子供気象、朝食、家事全般  
8:00～8:20 幼稚園へ送迎、勤務へ  
9:00～9:30 勤務開始  
15:30～16:00 勤務終了  
幼稚園(たまに学童)にお迎え  
17:00頃 帰宅、夕食準備  
18:30～ 夕食  
19:30～ 夫帰宅、子供のお風呂、家事全般  
21:00～23:00 子供の寝かしつけ、就寝

### ★今後の目標

来年度はきらめき所属5年目となりました。来年は、論文をすすめて、このポスターに成果を報告することが目標です。



## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

皮膚科 医師

### 自己紹介

卒後15年目の皮膚科医師です。  
医師の夫(九大勤務)と子供1人(2歳8ヶ月)とビーグル犬(3歳)の3人+1匹家族です。  
昨年度よりきらめきプロジェクトに所蔵し、九州大学での外来勤務と、市中病院での勤務を行なっています。  
慣れない第1子の育児と親族のヘルプが全くない状況での職場復帰に不安を感じたため、昨年度よりきらめきプロジェクトに所属させていただいています。

### 経歴

2009年 佐賀大学卒業  
2009-2011年 初期研修  
2011年 九州大学皮膚科学教室入局  
2011-2012年 市中病院勤務  
2013-2014年 九州大学勤務  
2015年 福岡大学形成外科勤務  
2016-2020年 九州大学勤務  
(病棟医長2年、副病棟医長2年)  
2017年 皮膚科専門医取得  
2022年 長女出産・育休  
2023年- きらめきプロジェクト所属

夏休みに  
テーマパークへ♪



### 1年を振り返って

昨年度より引き続きの勤務のため、今年度はスケジュールにも慣れてきました。子供も体調を崩す回数が減り、保育園からの呼び出しも数えるほどでした。時短勤務でも家庭と仕事の両立の難しさに直面することがあり、毎日1日を無事に終わらせることに精一杯です。今年度で退局し、4月からは市中クリニックでの勤務となる予定です。きらめきプロジェクト、周囲の先生方、家族のお陰で今までなんとか仕事を続けることができ、大変感謝しております。また新しい勤務体制となるため、少し不安もありますが、今まで以上に精進したいと思います。

### 現在の勤務状況

月曜：PM 外勤  
火曜：AM 九州大学 再診外来  
水曜：16:30～ カンファレンス  
木曜：PM 外勤  
16:30～ カンファレンス  
金曜：AM 九州大学 新患外来  
PM 九州大学 外来勤務

## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

産科婦人科 医師

### 自己紹介

卒後18年目の産婦人科医師です。産婦人科の内分泌研究室に所属しています。大学院の後、令和4年度よりきらめきプロジェクトに参加させていただいております。家族は夫と子供3人です。

### 活動内容

①婦人科のヘルスケア外来を担当しています。

<ヘルスケア外来の主な対象>

- ・婦人科がんサバイバー
- ・リスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)施行後のHBOC女性
- ・月経関連疾患(無月経、過多月経、月経困難症、PMSなど)
- ・子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫
- ・妊娠高血圧症候群および妊娠糖尿病の既往者のヘルスケア

がんサバイバー等の閉経患者には現在のホルモン補充療法の有無に関わらず将来の骨粗鬆症や動脈硬化の予防のための検査や指導を行っております。

近年保険収載されたRRSOに関して、RRSO後女性のヘルスケアにも注力しています。

②その他

今年度、学位審査取得予定です。

大学の診療日以外は、クリニックで勤務しています。

### きらめきプロジェクトに参加して

きらめきプロジェクト主催の講演会は毎度興味深く拝聴しています。他科の先生方や他職種の方々の活動を知る機会もあり、キャリア継続のモチベーションにつながっています。

臨床だけでなく、研究や学会発表の場を与えていただき、感謝しています。

きらめきプロジェクトへの参加をご理解いただいた医局の方々や、きらめきスタッフの方々、そして支えてくれる家族に感謝しております。

来年度も継続予定です。よろしくお願いいたします。

# 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

脳神経内科 永田 諭



## 経歴:

H25	3	九州大学医学部医学科 卒業
H25	4	熊本赤十字病院 初期研修医
H27	4	九州大学神経内科 入局 九州大学病院 神経内科 医員
H28	4	別府医療センター 神経内科 常勤医師
H30	4	九州大学大学院医学系学府神経内科学分野 入学
R6	3	九州大学大学院医学系学府神経内科学分野 卒業
R6	4	九州大学病院臨床教育研修センター(きらめきプロジェクト) 学術研究員

## きらめきプロジェクトに所属した経緯:

令和5年秋から令和6年度の間、次女(1歳)が病気治療のための長期入院(妻は24時間付添い)が必要となり、その間は私が長女(4歳)の世話をしなければならなくなりました。当科主任教授に相談したところ、今年度所属先としてきらめきプロジェクトの提案を頂き応募させて頂きました。

## きらめきプロジェクト所属後の生活スケジュール:

9:00 長女を幼稚園に送る  
10:00 勤務開始  
15:00 勤務終了  
16:00 長女を幼稚園に迎えに行く  
21:00 長女を寝かしつけた後の時間を論文作成などに充てることもできた(必要な場合のみに限る)

## きらめきプロジェクトに所属して:

恥ずかしながら、当科主任教授に提案頂くまではきらめきプロジェクトに男性が所属できることを知らなかったため、昨年度終盤は大学院卒業後の勤務先や勤務形態についてかなり悩んでいました。きらめきプロジェクト所属後は、昨年度まで行っていた大学院時代の外来などの業務をそのまま継続させてもらえ、生活リズムを変えずにすんだことはかなり助かりました。日中の業務の合間で動物実験を行うのはなかなか難しかったのですが、代わりにレビュー論文の作成(下の業績1)を行いました。長女を寝かしつけた後の自宅でも作業が可能であったため、無事に完成させることができました。次女の入院治療が今年度で一区切りが付き、来年度は関連病院での勤務ができるようになりました。

特に**男性の先生方**にも、きらめきプロジェクトに所属する意義・メリットをぜひ知って頂けたらと思います。

## 今年度の主な業績:

(1) Satoshi Nagata, Ryo Yamasaki

The Involvement of Glial Cells in Blood-Brain Barrier Damage in Neuroimmune Diseases

Int. J. Mol. Sci. 2024;25:12323

グリア細胞が血管内皮に及ぼす影響について、疾患との関連も併せて総説した。

(2) Ezgi Ozdemir Takase, Ryo Yamasaki, Satoshi Nagata, Mitsuru Watanabe, Katsuhisa Masaki, Hiroo Yamaguchi, Jun-ichi Kira, Hideyuki Takeuchi, Noriko Isobe.

Astroglial connexin 43 is a novel therapeutic target for chronic multiple sclerosis model.

Sci. Rep. 2024;14:10877.

コネキシン(Cx)ブロッカー投与によるアストログリアCx43ヘミチャネルの遮断によりEAEの重症度が改善されることを発見した。

(3) Eizo Tanaka, Ryo Yamasaki, Ban-yu Saitoh, Amina Abdelhadi, Satoshi Nagata, Sato Yoshidomi, Yuka Inoue, Koichiro Matsumoto, Jun-ichi Kira, Noriko Isobe.

Postnatal Allergic Inhalation Induces Glial Inflammation in the Olfactory Bulb and Leads to Autism-Like Traits in Mice.

Int. J. Mol. Sci. 2024;25:10464.

出生後早期のアレルギー暴露によりマウスが自閉症表現型を示したことを報告した。

(4) 公益財団法人 臨床研究奨励基金 研究助成採択



# 「私の働き方」

## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

眼科 関 瑛子

### 【自己紹介】

眼科10年目。関連病院を経て九大病院勤務

(専門分野:眼腫瘍・眼形成など)

2024年04月よりきらめきプロジェクト所属

夫:会社員

4歳と2歳の子育て中

### 【2024年度活動実績】

木曜日:手術、カンファレンス

金曜日:外来

・2024年05月 第57回眼科臨床病理組織研究会 発表

・執刀手術件数:30件(2024年4月~2025年1月)

術式	症例数
斜視手術	12例
腫瘍手術	7例
涙道手術	6例
眼瞼下垂症手術	3例
眼瞼内反症手術	2例

### 【働き方について】

今年度きらめきプロジェクトを利用させていただき、手術や外来診療を続けることができました。

しかし時間の制限はあるので、仕事が時間内に終わらないこともあり、同じ腫瘍・形成グループの先生方にとっても助けていただきました。1年間やってこられたのは他の先生方や医局スタッフなど周りの皆様のご理解とご配慮、手助けがあつてのことだと深く感謝致します。

私の場合は眼科という術後管理も比較的短期間の診療科なので手術も可能であったかもしれませんが、外科系の医師、ママ医師にとって、もっと色々な働き方が出てくれば良いと思います。

### 【きらめき所属になった経緯】

眼科医として主に外来、手術を行って来ました。

常勤で子ども2人の育児をしながら一杯一杯の毎日を送っていましたが、夫が単身赴任することとなり、臨床と子育てを両立するためにきらめきプロジェクトを利用することにしました。

### 【きらめきを利用してよかったこと】

- ・こどものために使える時間が増えた。
- ・こどもの急な入院や受診にも対応できた。
- ・引き続き専門分野を勉強できた。
- ・手術を継続できた。



## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

歯科麻酔科 太田百合子

### ～自己紹介～

卒後7年目の歯科麻酔科医です

2018年 九州大学病院 臨床研修医A2コース

2019年 九州大学病院 歯科麻酔学 入局

2021年 日本歯科麻酔学会 認定医取得

結婚

2022年 日本口腔顔面痛学会 認定医取得

出産

2023年 きらめきプロジェクト所属

### ～家族構成～

夫:歯科医師(九州大学病院勤務)

長男:2歳

### ～週間スケジュール～

月曜日:AM勤務(麻酔、周術期) PM育児家事

火曜日:AM勤務(麻酔、ペイン) PM育児家事

水曜日: 育児家事

木曜日: AM勤務(麻酔) PM育児家事

金曜日:外勤

### ～活動内容～

●麻酔管理 症例数:120例(2024.4～2025.1)

●ペイン外来

●周術期口腔ケアセンター(2週間に1回勤務)

### ～まとめ～

育児をしながら仕事もできるのだろうかとても不安でしたが周りの皆様の支えがあって、育児と仕事をすることができました。キャリアを維持できるようにサポートして下さったきらめきプロジェクトの先生方やスタッフの皆様、医局の先生方には本当にお世話になりました。きらめきプロジェクトに参加させていただき、実り多き一年となりましたことを心より感謝申し上げます。



## 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

高齢者歯科・全身管理歯科 實松 愛華

### 自己紹介

卒後20年目の歯科医師です。長いブランクを経て約3年前に仕事復帰致しました。子育てと仕事の両立のため、昨年度からきらめきプロジェクトに参加させていただいております。

### 略歴

2005年3月 九州大学歯学部卒業  
2005年～2007年 聖マリア病院歯科研修医  
2009年 長男出産  
2013年 長女出産  
2022年～ 九州大学高齢者歯科・全身管理歯科に医員として勤務  
2023年～ きらめきプロジェクト参加

### 勤務状況

月曜：外勤（訪問歯科診療）  
水曜：外勤（訪問歯科診療）  
木曜：大学病院外来  
金曜：大学病院外来

### 1年を振り返って

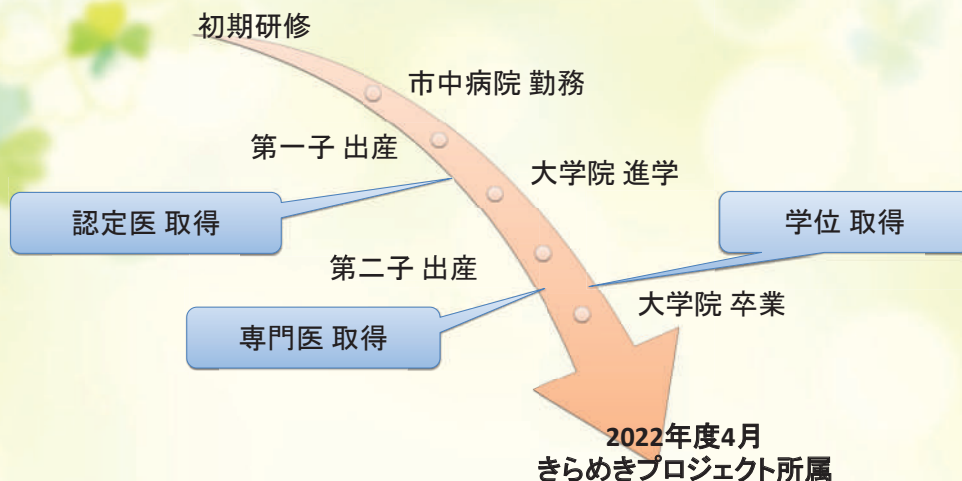
復帰後3年が経ちました。きらめきプロジェクトに参加させていただいたことで、子供と過ごす時間を増やすことができました。診療に関しましては、引き続き多くの経験を積ませていただいております。サポートしていただいている医局の先生方や家族、きらめきスタッフの皆様への感謝を忘れず、今後も精進して参ります。

# 令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告

## きらめきプロジェクト 医師

### 自己紹介

- 子供； 小学生2人
- 経歴；



#### きらめきプロジェクト所属にいたるまで

- 大学院卒業後も研究の継続を希望し、子どもとの生活を考え、非常勤で勤務することを選択しました。
- 臨床経験を積みながら、研究活動を継続するため、きらめきプロジェクト所属を申請しました。

#### 今年度の活動

- 大学病院の非常勤医師として専門外来をさせていただくことで、多くの症例を経験させていただきました。
- 第二子出産後は在宅でも研究活動をし易い臨床研究が中心でしたが、臨床検体を用いた解析や細胞実験などの基礎研究にも着手し、研究スキルの向上とともに、研究の幅を広げることができました。
- 今年度は数回、現地で参加することができ、研究活動へのよい刺激となりました。

#### 生活を振り返って

- 成長とともに、学校であったこと、思ったことなど、色々な話をしてくるようになり、一人の人間としての成長しているのだなと実感しています。起床から登校まで、帰宅から就寝までの時間は、慌ただしく過ぎていきますが、子どもとゆっくり会話する時間が、日々の楽しみです。思った通りに仕事や研究を進められないことも多いですが、今しかない子どもと過ごせる時期を、大切にしたいと思っています。

#### 最後に

- 様々な場面で、たくさんの方々にご協力、ご支援をいただきました。きらめきプロジェクトの先生・スタッフの方々、上司や周りの先生・スタッフの方々、男女共同参画推進室を始め大学職員の方々に、心より感謝を申し上げます。
- 今後、医療への貢献だけでなく、出産、育児にかかわらず、働き方、キャリア・スキルアップに思い悩んでいる方々に、自身の経験を生かし少しでも力になることで、ご恩を返していけたらと思っています。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

顔面口腔外科 安藤紗帆

## 自己紹介

- 2013年 鹿児島大学卒業、名古屋第二赤十字病院口腔外科で臨床研修
- 2014年 名古屋大学医学部附属病院歯科口腔外科で臨床経験
- 2016年 鹿児島に転居、一般歯科開業医(小児矯正歯科)で勤務
- 2018年 結婚、長男誕生、退職
- 2022年 長男幼稚園年少に5月頃入園、前職場に短期勤務後に夫の転勤で福岡に転居
- 2024年 きらめきプロジェクト参加

## 家族と日々の生活や課題



## これまでの振り返り

長男が誕生してほどなくコロナ禍になると家庭にこもりがちになり、2語文しか発しない息子との会話がその日のコミュニケーションのすべてというような日々徐々に対人スキルが退化していき、当時は臨床どころか社会復帰にも不安がありました。しかし長男が年少になる歳に「幼稚園に行きたい！」と自ら社会へ飛び出していったことをきっかけに、私の停止していた時間もゆっくり動き出したように思います。奇跡のようなご縁できらめきに所属することになり、たくさんの方々に支えられていま九大病院のような素晴らしい環境で診療に携われていることに感謝しております。長いブランクは埋められるものではないですが、自分にもなにかできることがあると信じてこれからもたくさん学ばせていただきたいと思います。

# 「令和6年度 きらめきプロジェクト活動報告」

高齢者歯科・全身管理歯科 名前 桐石 祥果 

## 自己紹介

卒後11年目の歯科医師です。  
卒業後すぐに結婚、関東に在住しておりましたが、帰郷し5年のブランクを経て、  
医員として仕事復帰し、きらめきプロジェクト所属となりました。

### 略歴

2014年 出身大学卒業  
2016年 結婚  
2018年 長男出産  
2020年1-3月 九州大学病院  
高齢者歯科・全身管理歯科  
研修登録医  
同年4月 医員として勤務  
2021年- きらめきプロジェクト参加  
2024年 老年歯科医学会認定医取得

### 1日のスケジュール

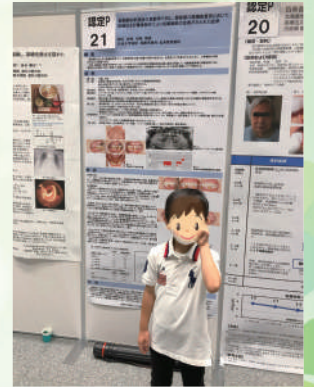
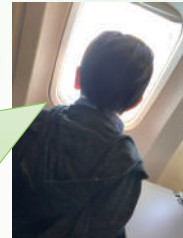
6:30 起床・子供のお弁当作り・家事  
7:30 子供起床・朝食・登園準備  
8:30 送迎 幼稚園  
9:30 出勤  
18:30 帰宅・夕食準備・家事・お風呂  
22:00 寝かしつけ・片付け  
24:00 就寝

### 勤務状況

月 九州大学病院 外来勤務  
火 外勤日(訪問歯科診療)  
水 外勤日(訪問歯科診療)  
木 九州大学病院 外来勤務  
金 フリー



学会参加のために子供と一緒に北海道へ。  
初めての飛行機にドキドキ☆



## 活動報告

全身疾患や服薬内容によって歯科治療を受けにくい方を中心に、医科と連携を取りながら、診療を行っています。また、化学療法・放射線療法・全身麻酔下での手術等に対する口腔内精査を行っています。

個人では、昨年まで調査を行っていた歯科治療恐怖症患者へのアンケート(MDAS)の結果をまとめ、研究を続けております。

また、今年度は目標としていた老年歯科医学会にて認定医を取得することができました。

### きらめきプロジェクトに参加して

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となってから、息子の通う幼稚園も徐々に行事参加への機会が増えましたが、きらめきに参加させていただくことで、行事への参加が可能となり、嬉しそうな子供の姿を見守ることができました。

また、今年度は私の1つの目標であった認定医の取得を達成することができました。これを機に、歯を治療するだけの対応ではなく、全身疾患の状況等をふまえた患者個々の状態に応じた口腔機能の回復・維持をめざす歯科治療を行うことができるよう日々研鑽を積んでいきたいと思っております。

このような生活を送ることができるのも、きらめきプロジェクトや理解ある医局の先生方、家族のおかげだと思っております。感謝の心を忘れずに、今後も自己研鑽に励んで参りたいと思っております。

## 6. 学内外での活動

### ●第 58 回 沖縄産科婦人科学会学術集会

日時：令和 6 年 9 月 2 9 日（日）

場所：沖縄医師会館

特別講演テーマ：

「産婦人科医療の現状と課題～

今、アカデミアとしてできること～」

プログラム責任者 加藤 聖子 先生



### ●第 3 回九州大学循環器内科女性医師の会

日時：令和 6 年 9 月 2 8 日（土）

場所：西坂医院

講話テーマ：

「何でもありの働き方～

九大病院きらめきプロジェクトのご紹介」

顧問 樗木 晶子 先生



### ●第 40 回日本小児外科学会秋季シンポジウム・PSJM2024

日時：令和 6 年 1 0 月 2 5 日（金）

場所：一橋大学一橋講堂

討論テーマ：

「徹底討論！各大学の働き方改革の現状～理想と現実、  
トップの視点と部下の視点～」

副プログラム責任者 宮田 潤子 先生

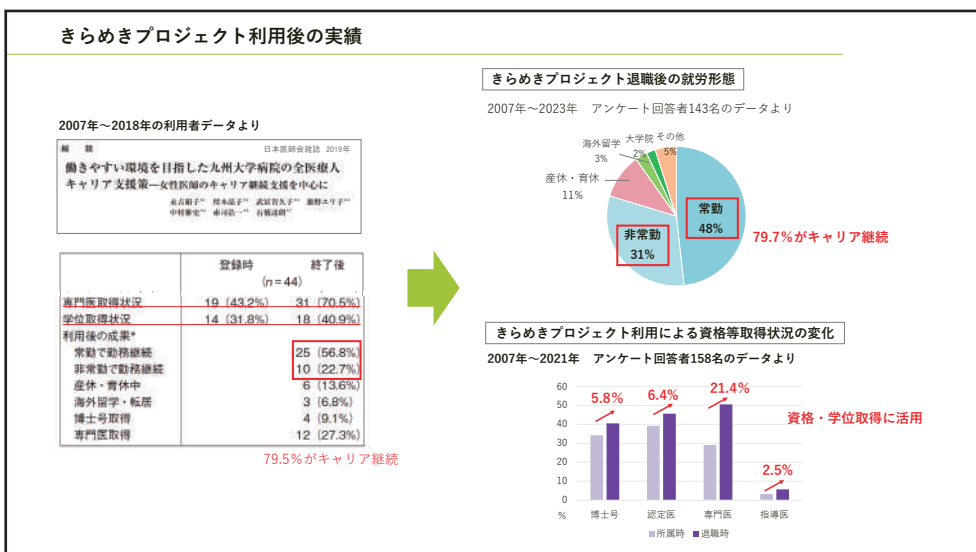
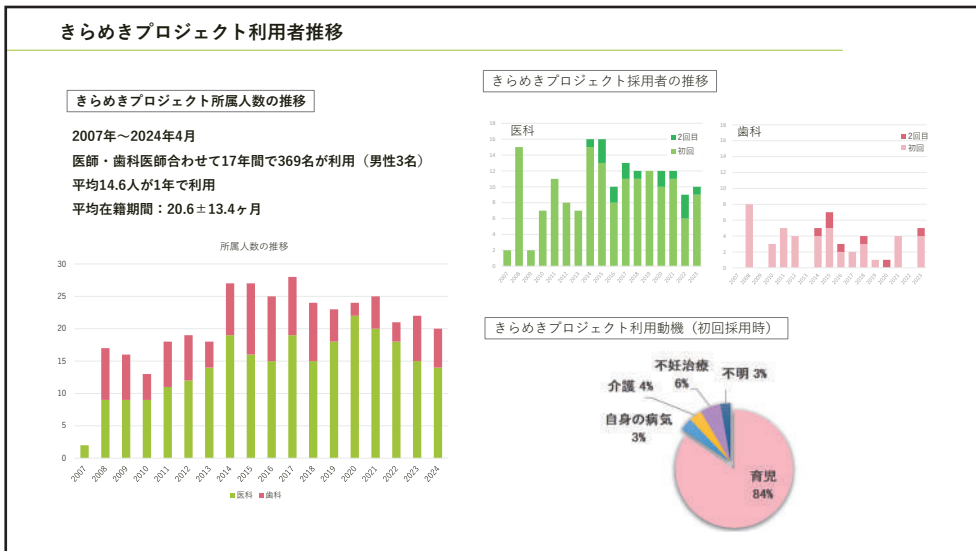
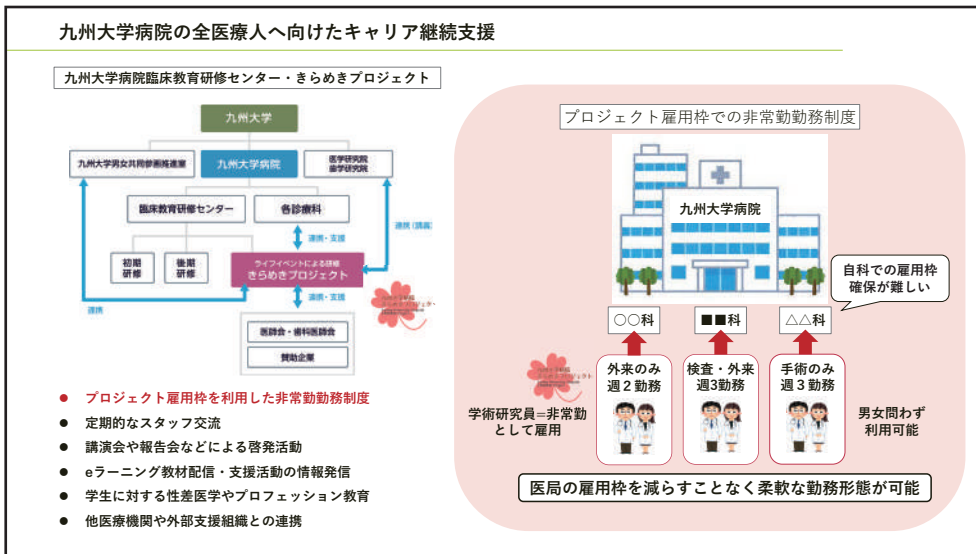
(日本小児外科学会

ワーク・ライフ・バランス検討委員会委員)



# ●九州大学病院の全医療人へ向けたキャリア継続支援 報告

副プログラム責任者 永吉 絹子 先生



## 7. 情報発信（きらめき通信）

2ヶ月に1回、きらめき通信を発行しています。院内および学内に向けて、プロジェクトの活動報告やイベント案内のほか、当プロジェクトに所属するスタッフを各回で紹介しています。

vol.80 5月発行

### ～ジェンダー学講義 学生の感想（抜粋）～（1面のつづき）

- ・性別役割分担意識がなくなり、男性も女性も育児を分担して担うことが当たり前になる社会に近づくには、性を女性、男性、それ以外のLGBTの人々と分けて考えるのではなく、性とはスペクトラムだと捉えるという考えがとても役立つと思った。
- ・私も無意識に持っている固定観念や無意識にしている女性差別等に対して自身を客観視することで見直していきたいと思いました。
- ・男性女性関係なく互いにサポートしあえるようになるためにはまず自分が周りの人の支えになれるように相手を理解する必要があると思う。
- ・HOVのフクチンの重要性についてあまり知識がなかったのでとてもいい学びになりました。
- ・今後勉強する、がんについて女性だけでなく男性も自分のこととして考えていくべきだと思った。
- ・ジェンダー学というのはなんとなく社会における男女の差をなるべく縮めていく感じのものだと思っていたが、違いを正しく認識することが大切で、対立概念ではなく連続スペクトルだというのは考え方が変わったためになった。
- ・ジェンダー学というのは社会における男女の差をなるべく縮めていく感じのものだと思っていたが、違いを正しく認識することが大切で、対立概念ではなく連続スペクトルだというのは考え方が変わったためになった。
- ・性別にこだわらない時代であっても体の構造の違いがあること、そしてお互いに協力することの重要性について学ぶことができました。
- ・自分は男子学生ですが、子宮頸がんや乳がん、更年期障害などの女性に多い病気に対して正しい認識を持って、医師として広く周知していけるようになりたいと思いました。



九州大学病院 臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1  
TEL・FAX：092-642-5203  
E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
URL：https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



## きらめき通信 vol.80

2024年5月（隔月発行）

### 医学部ジェンダー学講義を行いました

きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、医学部・歯学部学生に対し、医療人としてのプロフェッション教育を行っています。

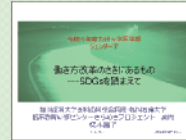
日時：4月15日(月) 2、3時限目

講師：きらめきプロジェクト  
プログラム責任者 加藤 聖子 先生  
顧問 榎木 晶子 先生



加藤 聖子先生 榎木 晶子先生

4月に医学部2年生を対象としたジェンダー学講義を行いました。講義では、講師の先生方がそれぞれのご専門の観点から実践なども交えてお話しされました。



2時限目 榎木先生講義資料より



3時限目 加藤先生講義資料より

### ～ジェンダー学講義 学生の感想（抜粋）～

- ・人は一人一人個性を大切に自分に合う仕事をしていけばいいのだと考えることができました。
- ・医療従事者の数が足りない中で環境を整え男女が同じように働けるようになることはとても大事なことで感じた。
- ・将来はジェンダー学がなくなるほど男性医師と女性医師の格差がなくなるように私も努力をしたいと思います。
- ・医師の働き方改革が正しい形で実現されていくことを願います。

(4面につづく)



## 令和6年度 医学部学生交流会を開催しました

きらめきプロジェクトでは、学生のキャリア形成における意識啓発やロールモデルの提供を目的として、医学部・歯学部それぞれで学生交流会を毎年開催しています。

【日時】令和6年4月15日(月) 12:00～12:55

【場所】九州大学病院キャンパス 臨床小講堂2

医学部学生交流会は、福岡県医師会と共催して行いました。福岡県医師会から副会長 一宮 仁先生と理事 田中 真紀先生にお越しいただきました。両先生はアンケート結果や多くの資料を示しながら、会場いっばいに参加した学生に向けて、とても分かりやすく、貴重なお話をしてくださいました。この日は開催時間に合わせて、美味しいランチをいただきながらの会となりました。



共催ご挨拶  
福岡県医師会 副会長  
一宮 仁先生



ご講演  
福岡県医師会 理事  
田中 真紀先生



閉会ご挨拶  
九州大学病院  
臨床教育研修センター長  
新納 聖昭先生



### ～参加した学生の声～

- ・働き方改革について知ることが出来てとても有意義な時間でした。
- ・田中先生のお話が興味深かったです。今後医師として働く上で常に10年後どうありたいかを考えながら学び続けていきたいです。
- ・聞いたことない話だったので非常に興味深い話だった。
- ・今回とてもためになる話が聞けて、モチベーションの向上にも役立ちました。ありがとうございました。
- ・現場を身近に感じられる非常に良い機会になりました。
- ・キャリアについて具体的にイメージできたので良かったです。
- ・将来について考えるきっかけになりました。



# きらめき通信 vol.81

2024年7月 (隔月発行)

## ～性差医学入門講義 学生の感想 (抜粋)～

- ・性別、より広く捉えれば個人によっても、罹りやすい病気や治療方法が異なることが当たり前理解され、1人ひとりがより適した医療行為を受け、健康に過ごすことができる環境になればよいと思った。
- ・ジェンダー平等を尊重しつつも、現実存在する男女の生物学的な差異も考慮する必要があると思った。
- ・性差医療は総合医学であり、臓器別医学ではない臓器横断的医学となる。
- ・性差医療を実現することは全人的な医療を行うことにつながる。
- ・性差医療の概念を知っておくことで、疾患やその治療法などへの理解度がかなり変わってくるように感じた。
- ・命のために必要な治療を行い、患者のメンタルをケアし普通の生活に戻ることができるよう、その後の問題にも寄り添うことが大切だと思った。
- ・病気により体に自信のない女性のための製品などをお伝えし、日常生活の幸福度が上がるような支援をしていけたらと思った。
- ・成長後の精神的な悩みなどの問題について、患者やその家族にきちんと説明し、寄り添ったアフターケアをする責任が医師にはあると思う。
- ・病院内の他の子どもや時には病院内の子どもと関わることで、様々な人がいるということを教えてあげたい。
- ・患者さんが身近に感じてくれるような医師になることを意識し、患者さんの悩みや気持ちを小さなことでも話しやすい環境をつくっていきたい。

## 令和6年度きらめき講演会を開催します

今年度講演会は九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FDと合同で開催します。

講師として、医師でありながら長年行政に携わっておられる福岡市副市長 荒瀬 泰子先生をお招きします。

日時：令和6年9月11日(水) 18:00～19:00

会場：病院キャンパス アイン薬局九大南店 2階大会議室

対象：九州大学 教職員・医療従事者・学生



九州大学病院 臨床教育研修センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX：092-642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.kiramekiopj.kyushu-u.ac.jp/



## 性差医学入門講義を行いました

～きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、医学部・歯学部の学生に対し、医療人としてのプロフェッション教育を行っています～

### ●性差医学入門講義 (医学部2年生対象)

7月2日 (火) 4時限目

講師：九州大学病院乳腺外科 診療教授

久保 真 先生



久保 真 先生

7月11日 (木) 3時限目

講師：九州大学大学院医学研究院保健学部 講師

きらめきプロジェクト副プログラム責任者

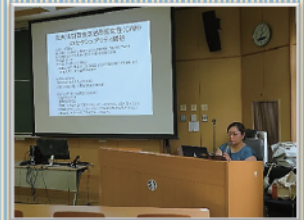
宮田 潤子 先生



宮田 潤子 先生

それぞれの講義で、久保先生はがんと遺伝医療の観点から具体的なデータ等を示しながらお話され、宮田先生は小児期の病気による性的問題をいくつかの症例を交えながらお話されました。

今回の講義で、学生たちは病気による性的問題や、性差と病気との関係を学び、性差・性差医療の必要性和重要性について自分なりに考えるよい機会となりました。



## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



卒後15年目の皮膚科医です。

家族構成は夫 (医師) と2歳の娘、3歳のビーグル犬の3人+1匹家族です。

産後、親族のサポートがほぼ0での仕事復帰に不安を覚え、きらめきプロジェクトに昨年度よりお世話になっております。勤務は週に2回、大学での外来業務を行っています。新患外来を担当させて頂いていることもあり、一般病院ではなかなか経験できない症例を経験できたり、カンファレンスで他の先生方が経験された症例と一緒に検討することができ、非常に有意義な時間となっています。

復帰してすぐは、1歳前だった娘が体調を崩すことも多く、月の半分ほどしか保育園に通えなかったこともあり大変でしたが、最近は体調を崩すことも少なくなり、楽しく保育園に通ってくれているので、安心して仕事ができます。主人も大学勤務で忙しい中、なるべく家族との時間を作ってくれ、感謝しています。

きらめきプロジェクトのおかげで、仕事も家庭のこともある程度余裕のある状態で臨めることができ、とてもありがたく感じています。きらめきプロジェクトのスタッフの皆様、医局の先生方のご支援に深く感謝いたします。

「健康で楽しく」をモットーに、これからも自己研鑽に励み、貢献できるよう頑張りたいと思います。



卒後15年目の歯科医師です。他大学病院に勤務する救急医の夫と3歳2歳の女兒の4人家族です。

卒後大学院へ進学し、その後大学病院勤務、市中病院へ出向しましたが、結婚を機に2019年から休職し、2児を産しました。子ども達がまだ幼く手がかかるうえ夫は多忙、両親は遠方で頼れず、コロナの影響もあり、しばらくの間は復職を諦めておりましたが、きらめきプロジェクトに所属している医局同期から話を聞き私も本プロジェクトで復職させていただきたいと思い、長女の幼稚園の預かり保育が可能となった2023年10月より参加させていただくことになりました。

昨年度の半年間は週1回、2024年4月からは週2回に勤務日を増やし、九州大学病院の外来で勤務しております。外来では抜歯、顎骨嚢胞、顎関節症、炎症、粘膜疾患、顎骨壊死等の診療と周術期の診療を行っています。私の勤務日は、長女は幼稚園の延長保育を、次女は昨年度は大学病院敷地内の保育園の一時預かりを利用しておりましたが、今年度は定員オーバーで預けられなくなってしまったため自宅周辺の一時預かり施設を利用しております。「ママ行かないで」と泣くこともありますが、仲の良い友達ができたりして社会性が育まれ、プラスに感じられる面もあります。

私自身は勤務日が増え体調を崩してしまいましたが、周囲の仲間や先輩方のサポートで勤務を維持できています。私にとって、復職はハードルの高いものでしたが、きらめきプロジェクトに参加することで、復職の機会を与えていただけたことを大変ありがたく思います。



# きらめき通信 vol.82

2024年9月（隔月発行）

## 令和6年度 九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・ 九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト講演会を開催

きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、毎年、講演会・学生交流会・スタッフ発表会などによる啓発と周知活動を行っています。

今年度講演会は、福岡市副市長である荒瀬 泰子先生を演者としてお招きし、九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FDと合同で開催しました。

荒瀬 泰子先生は1978年に九州大学医学部を卒業されました。2015年4月から現在まで3期にわたり福岡市副市長として活躍されています。



令和6年度  
九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・  
九州大学病院きらめきプロジェクト講演会

**9月11日(水)**  
18:00～19:00

九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD  
アイヌ薬局九大南店 2階大会議室

●講演  
福岡市副市長 荒瀬 泰子 先生  
\*1978年九州大学医学部卒業  
\*「増える認知症と対策（福岡市）」

●申し込みと参加費  
申し込みは無料です。申し込みは申し込みフォームから  
お申し込みをお願いします。（申込締切：9月27日（金））

申し込みはこちら

QRコード

[注] 会場：福岡市馬出地区4部局合同男女共同参画FD・九州大学病院臨床教育研修センター  
[注意] 申し込みは9月27日（金）までです。申し込みは申し込みフォームから  
九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・九州大学病院臨床教育研修センター  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1  
TEL: 092-642-5203 FAX: 092-642-5203  
E-mail: kirameki@jim.kyushu-u.ac.jp  
URL: https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



### ～FD・講演会 参加者の声（抜粋）を紹介します～

- ・子供の認知症教育が始まっていることは初耳でした。
- ・福岡市の認知症対策について、多くのデータを提示していただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。データも利用できそうですので、機会がありましたら利用したいと思えます。
- ・データに基づいたprediction（予測）やそれに対する方策等を進めていって、市政の内容が分かりやすく楽しい講演内容でした。60分は短いですね。
- ・先を見て施策を立てることが非常に参考になった。
- ・データの活用に興味があります。
- ・福岡市で進めている施策の一部を知ることができました。ほかの部分にも興味を抱きました。市民として聞く機会を探してみようと思います。
- ・福岡市が認知症のために様々なことを行っていることを知る機会を持ててよかった。自分の両親が高齢なので、体だけでなく心を健康のままにいてほしいと思っていますので、とても参考になった。
- ・高齢化社会に伴い、今後増加していくであろう認知症の方をサポートするための取り組みを福岡市がしっかりとされていることがよくわかりました。
- ・今後の高齢化社会における指針の参考になりました。
- ・福岡市の取り組みを理解することができました。データに基づいた施策は市民のよりよい生活に効率よく貢献するものと思えます。
- ・とてもよかった。ユマニチュードの実践がよくわかりました。
- ・認知症ケアとして注目を集める「ユマニチュード」とそれを情報学とからめて科学的エビデンスを集めようとする試みは画期的なことだと思った。わかりやすくそれを説明していただき、とても感銘を受けた。
- ・福岡市の取り組みがよくわかった。他の町ではどの程度取り組みがあるか、あるいは効果が他の町とどのように違うか興味がある。
- ・先生のようにイキイキと知的な女性になれたらと思います。今日はありがとうございました。
- ・歯に対する子供のころからのアプローチのように、生活習慣病に対する取り組みも発症前段階から進んでいくといいと思いました。
- ・福岡市は日本全国を見渡しても数少ない「発展を続ける街」である。人口減少せず、成長を続ける理由が、このようなユマニチュードの試みにあるのかなと今回実感した。



九州大学病院 臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1  
TEL・FAX: 092-642-5203  
E-mail: kirameki@jim.kyushu-u.ac.jp  
URL: https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



## 令和6年度 九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・ 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト講演会を開催しました

日時：令和6年9月11日(水) 18:00～19:00  
会場：病院キャンパス アイヌ薬局九大南店 2階大会議室  
テーマ：「増える認知症と対策（福岡市）」



講演会の様子

講演では、福岡市の施策である「福岡100」をご紹介いただきました。  
“「福岡100」では、なぜ、そしてどのように様々なプロジェクトに取り組みられているのか”を多くのデータや資料を示しながら、わかりやすくお話しされました。

「福岡100」の取組の一つであり、認知症フレンドリーシティを目指すために重要な「ユマニチュード®」という認知症コミュニケーション・ケア技法についてのお話は大変興味深いものでした。福岡市では、「ユマニチュード」を広めるために、市内の小中学校・公民館・消防・救命救急に携わる方々がいらっしゃる場所などで講座を行っているとのことでした。

荒瀬先生は、状況やデータを分析し、将来を見据えて施策を立てることが大切であるとおっしゃいました。また、情報やデータ分析等様々な場面において、本学との連携にも期待されていました。最後に語られた「これからもみんなが生き生きと優しく、尊敬の気持ちを持って暮らせるまちをつかっていきたい」とのお気持ちに深く感銘を受けました。

当日は多くの皆様にご参加いただきました。誠にありがとうございました。



福岡市副市長  
荒瀬 泰子 先生



開会挨拶  
九州大学大学院  
歯学研究院長 西村 英紀先生



来賓ご挨拶  
九州大学 神崎 智子 理事



司会進行  
きらめきプロジェクト  
プログラム責任者  
加藤 聖子 先生



主催者挨拶  
九州大学病院  
臨床教育研修センター長  
新納 宏昭先生



講演・開会挨拶  
きらめきプロジェクト  
顧問 櫻木 麗子 先生



講演会の様子

～歯学部学生交流会 参加学生の声を紹介します～

- ・AIの導入や機械化による仕事の変化にも対応できるようにならないと置いて行かれてしまうので常にアンテナを張って仕事をやりたいと思いました。
- ・これから何を学習し、何科に進むのか、どのような歯科医師になりたいのかといった自分の人生やライフプラン、キャリアプランを見つめ直すとても良い機会となりました。
- ・歯科医師が今後求められるというお話や私たち九州大学歯学部の学生を支援したいと語ってくださっている方がいるというお話を聞いて、とても胸が熱くなりました。
- ・何か特定の分野に対して強みがあると働きやすかったり多様な働き方が可能になってくると感じたので、自分も大学院に行って自分の武器と言えるものを身につけていきたいと思いました。
- ・最も印象に残ったのは誰かのために働くということが幸せにつながるということです。
- ・AIの活用や歯科治療の最先端の機器を用いた治療により、今まで取れなかった膨大な量の口腔内のデータを用いて、また新たな歯科治療に役立つものを開発するということが一番印象に残った。
- ・歯科医師は感謝の言葉をかけられる仕事、コツコツと知識・技術を得る必要があるけれど、自分の努力を生かせる仕事、人相手の仕事、人の気持ちや訴えをくみ取って、治療してよかったと思ってもらうような仕事と聞いて今まで私は歯科医師ってなんかマニアックであまり楽しみなさそうだと思っていたのでそのイメージを少し変えることができた。
- ・仕事ばかりにならないように自分の人生も楽しめるようにしたいなと思いましたし、そのバランスを考えて心身共に元気な状態を維持したいなと思いました。これから自分の歯科医師の人生が少し楽しみになりました。そのためにしっかりと勉強しようと思いました。
- ・「ひとつスキルがあれば活躍できる」というお言葉が印象に残っている。

九州大学病院 臨床教育研修センター  
 きらめきプロジェクト  
 〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1  
 TEL・FAX : 092-642-5203  
 E-mail : kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
 URL : https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



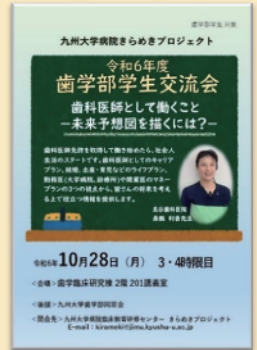
# きらめき通信 vol.83

2024年11月(隔月発行)

## 令和6年度 歯学部学生交流会、歯学部キャリアパスに関する講義を行いました

きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、毎年、講演会・学生交流会・スタッフ発表会などによる啓発と周知活動をするとともに、医学部・歯学部の学生をに対し、医療人としてのプロフェッション教育を行っています。

- 歯学部学生交流会  
 日時：10月28日(月) 3、4限目  
 対象：歯学部2年生 55名  
 講師：鳥谷歯科医院 (きらめきOB) 桑鶴 利香先生
- 歯学部キャリアパスに関する講義  
 日時：11月18日(月) 3、4限目  
 対象：歯学部2年生 55名  
 講師：九州大学病院口腔画像診断科 講師 きらめきプロジェクト 副プログラム責任者 清水 真弓先生



(2,3面につづく)



### 令和6年度 歯学部学生交流会

学生交流会の最初に、九州大学歯学部同窓会会長 久保 秀郎先生から、学生たちに励ましのお言葉をいただきました。

特に、今年度発足した歯学部学生後援会をご紹介いただきました。同窓会のさまざまな活動に加えて、学生後援会の存在は学生たちの大きな拠り所になると思います。

桑鶴先生は「歯科医師として働くこと-未来予想図を描くには?-」をテーマに、歯科医師のキャリアプラン、ライフプラン、マネープランについて、多くのデータや資料またご自身の経験などを基にお話しされました。

先生のお言葉にはとても力があり、学生たちは先生のお話にどんどん引き込まれていました。特に「楽しんで仕事をする」として「歯科医師としての技術だけではなく、様々なことをずっと学び続けることが大切」ということが印象的でした。

卒業後の自分の将来に様々な理想を持つ学生たちは「現実」について聞くことが出来て、とても勉強になったことと思います。



九州大学歯学部同窓会 会長 久保 秀郎先生



鳥谷歯科医院(きらめきOG) 桑鶴 利香先生



### 歯学部キャリアパスに関する講義

歯学部2年生を対象に、九州大学病院口腔画像診断科講師できらめきプロジェクト副プログラム責任者(歯科部門統括)である清水 真弓先生が「歯科医師としてのキャリアパスと男女共同参画」をテーマにTBL講義を行いました。

講義では、まず事前課題について解説を行い、理解を深めました。次に応用課題として、自分の理想とするライフプランや暮らし方を各自で考え、それをグループ毎に話し合せてまとめる作業を行いました。

今回の課題は自分と仮のパートナーとの「理想のライフプラン」「ふたりの家事分担」を考えるというとても具体的なものでした。将来のことを考えることが少ない学生たちにとってはなかなか難しい問題だったのではと思います。

この講義は歯学部学生交流会での桑鶴先生の講義から繋がるもので、学生たちは自分たちの将来を考える貴重な機会となりました。

歯学部学生交流会と今回のキャリアパスに関する講義を通して、卒業後の自分、そして自分がどのような未来を進むのかを考える時間になったと思います。



(4面につづく)



きらめきプロジェクトからご案内

★マタニティ白衣のレンタルを行っています★

九州大学病院きらめきプロジェクトでは、2014年4月より主に本学病院地区の教職員・学生を対象にマタニティ白衣のレンタルを行っています。  
この度、これまで使用しているマタニティ白衣に加え、長崎大学病院メディカル・ワークライフセンターがプロデュースした白衣を新たに導入しました。  
いずれの白衣もダブル仕立てのコートタイプで、お腹の膨らみが目立ちにくくなっています。また、腰囲の変化にあわせてウエストを調整できますので、妊娠初期から産後まで対応可能です。  
サイズは、Sサイズ、Mサイズを用意しています。

レンタルを希望される場合は、きらめきプロジェクトHPからお申し込みください。



きらめきプロジェクトHP(右上QRコードから)  
> ライフサポート > マタニティ白衣

★令和6年度スタッフ発表会を開催します★

日時：令和7年3月5日(水)～7日(金)  
会場：病院外来診療棟 2階ギャラリー

きらめきプロジェクト所属のドクターたちが各々の紹介や1年間の活動をまとめたポスターを会場内に掲示します。期間中はどなたでも立ち寄りいただけます。  
ドクターたちの奮闘ぶりを是非ご覧ください。



九州大学病院 臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX：092-642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.kiramekiopj.kyushu-u.ac.jp/



きらめき通信 vol.84

年頭のご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとうございます。  
きらめきプロジェクト副プログラム責任者(歯科担当)をさせていただいております顔面口腔外科の大山順子です。

私自身は独身で、子育てをしながら頑張っている先生方のご苦労は体験しておらず、私が副プログラム責任者をして良いのだろうかと思いつつも、自分ができなかった事を若い先生方に託して繋いでいただくために何をすべきかを自問自答する毎日です。

私が口腔外科に入局した時代は昨年の流行語大賞にもなった「ふてほど」が当たり前の時代で、「嫁に行くのが女性の幸せなのにまだこんな所で何をしているのか」など他の医局の先生方からも言われるような、それ以上の書面には書けないようなことも平気で言われるような時代で、結婚、妊娠して働き続けることは考えられませんでした。結婚すると女性医局員はその年度末には退局というのが常でした。少しずつ女性の後輩が増えた頃、男性の若手医局員が家族のことで休みやすい環境を作るように、「お互い様だから」という言葉をかけて自身の女性医局員が皆で率先して代役を引き受けよう、今後に繋がるからと動いていた時代もありました。そのうちに家族のことで仕事を調整して休むという環境で仕事をしてきた若手男性医局員は中堅になり、彼らやそれに続く若手の男性医局員が増えたことに加えて時代の流れもあり、女性が働くことに理解がある医局員が多くなり、さらに当たり前になり、医局員の男女比もほぼ1:1となり、医局内にも結婚、妊娠を経験する女性医局員も増えました。もちろん、医局員の理解があっても時間的な制約もたくさんありますので、ワークライフバランスを考えることができるこのきらめきプロジェクトには発足当初からたくさんの方々が所属させていたいただきました。キャリアを繋げたり再開したりする機会をいただき本当に感謝しております。そして今ではきらめきプロジェクトに所属させていただいて家庭に仕事に奮闘しながら数年を経てOGとなった後輩がそれぞれそれぞれの道で頑張っている姿や、立派に成長したお子さんの姿を拝見できるようなり、頼もしく思っております。

それぞれの想いや環境などに合わせて働き方を考えることができるこのきらめきプロジェクトに感謝し、自分のキャリア形成を行いながらも自我を通すばかりではなく、周囲に心を配り、周囲に感謝する気持ちも忘れないで頑張ることで他の医局員の理解も広げ、刺激にもなっていたOGのことを若い医局員に伝えると共に、プロジェクトメンバーのサポートを行いながら残り数年の副プログラム責任者の時間を全うしたいと思っております。  
末筆になりますが、今年が皆様にとって実りの多い1年にありますようお願い申し上げます。



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



卒後19年目の心療内科医です。

私は5年目から九州大学心療内科に入局し、以後大学病院の病棟や関連病院で、内科医・心療内科医として勤務してきました。二人の子供(現在小学生)を出産後は大学院に進学し、臨床研究を行いました。昨年度、14年ぶりに医員として大学に復帰しましたが、医員はやりがいはい大きいものの、病棟業務の仕事量は多く夜間のカンファレンスもありました。朝夕の子育ては慌ただしいものとなり、子供の心理面に影響が出てきたため、まず子供を優先するべく仕事の形を見直しました。大学での研究は続けたい気持ちはありましたが医局に非常勤の枠はなく、大学での勤務をあきらめかけていたときに、きらめきプロジェクトの秋採用の存在を知りました。こちらの切羽詰まった状況を理解し受け入れてもらったことで精神的にとっても楽になりましたし、非常勤の学術研究員として週2回心療内科の外来で臨床研究を続けることができました。非常勤にセーブしたことで不安はありましたが、きらめきプロジェクトの存在が学内に浸透していたことで周りの先生方もニュートラルに捉えてくれ、困難を感じることはありませんでした。  
本年4月に伊都診療所所長・准教授職に就くこととなり、フルタイムで子育てと両立できる時間帯で働くことが可能となりました。本プロジェクトで臨床・研究での経験をつなげる勤務を継続した意義はとて大きかったと感じています。



私は鹿児島大学歯学部を卒業後に愛知県の病院歯科等で口腔外科の研修を3年間経験し、その後結婚を機に転居、鹿児島県の小児歯科開業医で3年間勤務し出産のため離職しました。それから4年経過して子供が幼稚園へ入園し、夫の転勤により福岡へ転居した頃にきらめきプロジェクトを知りました。復職への希望や不安を抱えながらプロジェクトの説明会に参加したのが去年の冬です。これまでに九大病院どころか福岡とも全く縁のなかった私の応募に親身に対応してくださった先生方や事務局の方のお力添えのおかげで今年の春から顔面口腔外科で勤務させていただいています。過去に口腔外科を継続して学びたいと思っても転居した先で叶わずにいたので、まさか卒後10年経った今になって口腔外科を学ぶ機会に恵まれるとは夢にも思っていませんでした。4月から顔面口腔外科に勤務させていただいて、週に2日ですが母親ではなく一人の医療人として患者さんの助けになれることに喜びを感じます。技術や知識はまだですが、ありがとうと声をかけていただけることもあり、その度により研鑽しより良い歯科医療を提供していきたいと改めて思います。今年は外来の初診対応や手術などを経験させていただきました。今は診療に時間もかかりひとりではできないことばかりですが、口腔外科の先生方から多くを学び、できることを増やしていきたいです。  
来年度は子供が小学校に入学します。まだ手のかかる子供のことを母親としてなるべくそばで見守っていかたいと思っています。そしてどんどん成長していく子供に負けないうらい自分も成長できるような頑張りたいと思います。



きらめきプロジェクトでは、隔月できらめき通信を発行し、本プロジェクトの活動や所属スタッフの紹介を行っています。本プロジェクトHP内でご覧いただけるほか、九州大学病院2階廊下にも設置しています。

2025年3月（隔月発行）

# きらめき通信 vol.85

## きらめき通信 バックナンバー

きらめき通信とは??

日々が過ぎていくきらめきプロジェクト所属のドクター達の声やプロジェクトの活動内容を毎月発表している情報誌です。九州大学病院各階の廊下に置いてありますので、是非お手にとってご覧ください。きらめきプロジェクトのホームページでもご覧いただけます。

九州大学 きらめきプロジェクト

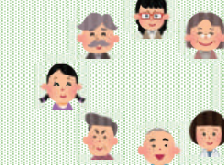
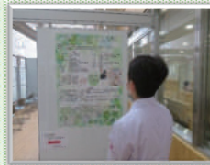
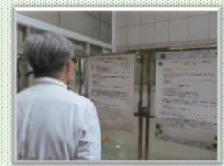
## 令和6年度スタッフ発表会を開催しました

きらめきプロジェクトでは、毎年3月1年間の総まとめとして、スタッフ発表会を開催しています。



日時：3月6日(水)～8日(金)  
会場：九州大学病院  
外来診療棟 2階ギャラリー

現在所属する医師12名、歯科医師5名が今年度1年間の活動をポスター掲示形式で発表しました。医師や歯科医師、病院職員はもとより、会場である2階ギャラリーにいらした患者様や一般の方々にも興味深くご覧いただくことができました。プロジェクトが取り組む男女共同参画の活動が少しでも多くの方に伝わり、医療に携わる者が幸せに働けることができるよう今後も様々な活動を行ってまいります。



九州大学病院 臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1  
TEL・FAX：092-642-5203  
E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
URL：https://www.kirameki.jp.kyushu-u.ac.jp/



## きらめきプロジェクトでは令和6年度も様々な活動を行いました！！

- ジェンダー学講義：医学部2年生対象（121名）  
講師 きらめきプロジェクト プログラム責任者 加藤 聖子 先生  
顧問 櫻木 晶子 先生

- 性差医学入門講座：医学部2年生対象（23名）  
講師 九州大学病院乳腺外科 診療教授 久保 真先生  
きらめきプロジェクト 副プログラム責任者 宮田 潤子 先生

- 医学部学生交流会：医学部学生対象（135名参加）  
講師 福岡県医師会  
副会長 一宮 仁 先生  
理事 田中真紀 先生
- 令和6年度馬出地区4部局合同男女共同参画FD・きらめき講演会  
教職員・医療従事者対象（69名参加）  
講師 福岡市副市長 荒瀬 泰子 先生

### 令和6年度 きらめきプロジェクト 活動報告

- 4月 ジェンダー学講義(医学部)  
講師:きらめきプロジェクト プログラム責任者 加藤 聖子 先生  
顧問 櫻木 晶子 先生
- 医学部学生交流会  
講師:福岡県医師会  
副会長 一宮 仁 先生  
理事 田中真紀 先生
- 5月 『きらめき通信』発行  
スタッフミーティング
- 6月 令和6年度きらめきスタッフ秋募集開始
- 7月 性差医学入門講義(医学部)  
講師:  
九州大学病院乳腺外科(1)  
診療科長 久保 真先生  
きらめきプロジェクト  
副プログラム責任者 宮田 潤子 先生  
『きらめき通信』発行  
令和6年度きらめきスタッフ秋募集 採用面接
- 8月 令和6年度九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・きらめきプロジェクト講演会  
講師:福岡市副市長 荒瀬 泰子 先生  
テーマ:「増える認知症と対策(福岡市)」  
『きらめき通信』発行
- 9月 令和6年度九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・きらめき講演会  
講師:福岡市副市長 荒瀬 泰子 先生  
テーマ:「増える認知症と対策(福岡市)」  
『きらめき通信』発行
- 10月 歯学部学生交流会  
講師: 鳥谷徳科医院 桑鶴 利香 先生
- 11月 ジェンダー学講義(歯学部)  
講師: きらめきプロジェクト 副プログラム責任者 清水 真弓 先生  
月例スタッフミーティング  
『きらめき通信』発行  
令和7年度きらめきスタッフ募集開始
- 12月
- 1月 令和7年度きらめきスタッフ募集採用面接  
『きらめき通信』発行
- 2月
- 3月 スタッフ発表会  
～1年間の活動報告・紹介を行うことにより、きらめきプロジェクトの活動意義を他者ともに確認・周知し、これからのプロジェクトの在り方を考えるよい機会となっています～  
『きらめき通信』発行  
スタッフミーティング

九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト  
TEL/FAX:092-642-5203  
E-mail:kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

- 歯学部学生交流会 歯学部2年生対象（55名）  
講師 九州大学歯学部同窓会 会長 久保 秀郎 先生  
鳥谷 徳科医院 桑鶴 利香 先生
- 歯学部TBL講義：歯学部2年生対象（55名）  
講師 きらめきプロジェクト 副プログラム責任者 清水 真弓 先生
- スタッフ発表会：きらめきプロジェクト所属の医師・歯科医師によるポスター掲示発表

きらめきプロジェクトでは、このように様々な活動を行っています。地域に必要とされる医療を持続的に提供できる社会の実現を目指していく中で、医療に携わっている方々のサポートができればと考えています。

## 8. 学習プログラム

きらめきプロジェクトでは、主催した講演会等を収録し、九州大学学習支援システムから配信、及びDVDの貸し出しをしています。

忙しい医師・歯科医師が自宅や学外でも視聴し、学ぶことができるようなサポート体制の基盤づくりに取り組んでいます。

### 作成コンテンツ

	タイトル	講師（敬称略）	所属
令和6年度きらめき講演会			
講演	「増える認知症と対策（福岡市）」	荒瀬 泰子	福岡市副市長
令和5年度きらめき講演会			
講演	「男性の育児参加： 長崎大学心臓血管外科における育休取得のこころみ」	三浦 崇	長崎大学病院 心臓血管外科
令和4年度きらめき講演会			
講演	「育児の共有」	伊藤 瑞子	医療法人 あおばクリニック
令和4年度きらめき学生交流会			
講演	「学生時代に考えておきたいキャリアと子育て」	落合 正行	九州大学環境発達医学研究センター
	「私が働き続け（られ？）る理由」	宮田 潤子	九州大学大学院医学研究院保健学部門
令和3年度きらめき学生交流会			
講演	「歯科医師として働くための未来予想図を描くには？」 （歯学部）	桑鶴 利香	鳥谷歯科医院（きらめきOG）
講演	「自分にブレーキを掛けないで！あなたのキャリアを応援します！」 （医学部）	磯部 紀子	九州大学大学院医学研究院 神経内科学
令和3年度きらめき講演会			
講演	「小分子ユビキチンによる炎症反応制御機構」	池田 史代	九州大学生体防御医学研究所 細胞機能制御学部門炎症制御学分野
きらめき交流会			
講演	「アイデア脳と五臓脳世界の医師の働き方についてきいてみよう！」	齋藤 アンネ 優子	順天堂大学医学部附属浦安病院 放射線科

## 9. スタッフミーティング議事録

きらめきプロジェクトでは、所属スタッフが定期的に集まり、近況報告や情報・意見交換を行っています。

### 【第98回スタッフミーティング】

日 時：令和6年5月22日（水）12：00～ Web 開催

#### 1. 4月新規採用者 自己紹介

#### 2. 行事について

3/6～8 スタッフ発表会、4/15 医学部学生交流会は無事終了しました。  
ご協力ありがとうございました。

##### ●ジェンダー学・性差医学講義日程

- ・ジェンダー学：歯学部 11月11日（月） 午後予定 清水 真弓先生
- ・性差医学入門：6月18日（火）4限 宮田 潤子先生（きらめき副プログラム責任者）  
7月2日（火）4限 久保 真先生（乳腺外科 診療科長）

##### ●歯学部学生交流会：歯学部2年生対象の歯学総論2内（秋学期）

開催日時：10月28日（月）午後予定

##### ●令和6年度講演会

- ・開催時期、講師について

○開催日：9月11日（水）18：00頃開始 1時間程度

○開催場所：医学図書館 1階アクティブラーニングスペース

○講師：荒瀬 泰子 先生（福岡市副市長）

##### ●令和6年度スタッフ発表会（3月開催予定）

#### 3. HIS 端末（カルテ入力）と実績について

#### 4. 周術期口腔ケアセンターでの勤務について（歯科）

- 清水先生より

#### 5. きらめき通信について

所属スタッフには所属中、原稿（400～600字程度）を書いていただきます。

自己紹介もかねて、きらめきに入られた経緯や入ってからの生活などをご自由に書いてください。

※院内ユーザーメールにて一斉送信・HP掲載・外来 2階、生協に設置

#### 6. スタッフへの連絡・報告事項

- ◆事務局からの照会事項等は、基本的にメールで連絡いたします。

※切が早いものなどがありますので、こまめなメールチェックをお願いいたします。

- ◆出勤簿の管理はきらめきで行います。

- ◆休暇を取得する場合、年休のほかに理由によっては特別休暇、子の看護休暇等となることがあります。それぞれに対象や条件がありますので事務局までお問い合わせください。

◆認定医、専門医、指導医の取得・更新、論文の採用等ありましたらお知らせください。

◆事務局の開室時間に変更になりました。 平日 8:30~17:15 です。

ご用があるときは、メール・お電話でお願いします。

TEL：092-642-5203 （内線 5203）

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

【第99回スタッフミーティング議事録】

日 時：令和7年3月10日（月）12:00～ Zoom 開催

1. 今年度の行事について報告
2. 令和7年度医師・歯科医師募集の結果報告  
7名採用（医師6名 歯科医師1名）
3. 令和7年度運営スタッフについて
4. 令和7年度スタッフの先生方のイベント等運営へのご協力（担当割）について  
本年度も大変お世話になりました。来年度もご協力よろしく願いいたします。
5. 令和7年度講演会について
6. 今年度の業績等ご紹介  
桐石 祥果 先生（高齢者歯科・全身管理歯科） 日本老年歯科医学会 認定医取得  
横田 奈津子 先生（産科婦人科） 学位取得  
久野 恭子 先生（第一外科） 学位取得
7. その他（事務からの連絡事項等）  
3月31日付退職者（8名）  
福元 多鶴 先生（第三内科） 西原 智恵 先生（心療内科）  
永田 諭 先生（脳神経内科） 久野 恭子 先生（第一外科）  
大野 麻衣子 先生（皮膚科） 原 茉実 先生（皮膚科）  
緒方 久修 先生（臨床教育研修センター）  
泉谷 真理子 先生（顔面口腔外科）

## 10. 令和6年度秋/令和7年度 採用募集要項

### 令和6年度 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 非常勤医師・非常勤歯科医師 秋募集のお知らせ

きらめきプロジェクトでは、魅力ある職場での生涯現役をめざして、医師・歯科医師の臨床現場定着及び復帰支援を進めています。育児、介護、自身の病気などのために常勤での勤務が困難であるが、専門医取得資格の継続、アカデミックキャリアの継続などを目的として非常勤で九州大学病院に勤務することを希望される医師・歯科医師を性別を問わず募集します。

#### ○求める人材

九州大学病院でご自身の専門性を生かし、非常勤の医師及び歯科医師として勤務することを希望する方

#### ○職務内容

- ・ 共通職務：きらめきプロジェクトのイベントなど運營業務への協力
- ・ 医師：ご自身の専門とされる診療科と相談の上、職務内容は決定(主に外来診療、検査業務)
- ・ 歯科医師：所属する診療科での診療及び周術期口腔ケアセンターでの予防外来診療

#### ○募集要項

- ・ 募集予定人数 若干名
- ・ 処遇
  - 【身分】 学術研究員 (非常勤)
  - 【勤務日数・勤務時間】 応相談  
(週4時間～12時間まで、ただし1日実働6時間まで/休憩12:00～13:00)
  - 【雇用期限】 年度末ごとの更新、ただし3年を上限とする
  - 【給与】 大学の規定による
  - 【福利厚生】 通勤手当支給 (大学の規定による額) ※社会保険は加入対象外

#### ○応募資格

育児・自身の病気・介護をされている医師及び歯科医師

#### ○出願書類 ※不備のないようにお願いいたします。

- ・ 履歴書 (3cm×4cm 写真貼付、学歴は高校卒業以上を必ず記入すること)、業績目録等  
※必ず、指定の用紙でご提出下さい。指定の用紙はきらめきプロジェクト HP 内、「NEWS & TOPICS> 求人情報> 【秋募集のお知らせ】 令和6年度」よりダウンロードできます。  
九州大学病院きらめきプロジェクト HP URL <https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>
- ・ 今後の抱負『今後、どういうキャリアを目指しているか+ (育児・介護、病気などの現在の状況)』 ※最後に、「勤務希望曜日」と「勤務希望時間」を書いてください。
- ・ 最終学歴の証明書：いずれかを提出→ 学位記(写：A4サイズ)・最終学歴の証明書(原本)・卒業修了証書(写：A4サイズ)
- ・ 博士号をお持ちの場合、博士課程の学位記(写：A4サイズ) 又は 学位授与証明書(原本)
- ・ 保険医登録票 (写)
- ・ 医師免許証 (写：A4サイズ)
- 【育児をされている方】  
母子健康手帳取得者および小学校6年生までの子供をもつ医師、歯科医師  
必要書類：母子健康手帳 (写) と子供の年齢を証明できるもの (健康保険証や住民票の写し等)

### 【介護をされている方】

家族（配偶者、父、母、兄弟、子供など）に要介護者、要看病者がいる医師、歯科医師  
必要書類：市町村による要介護認定等を証明できるもの（介護保険被保険者証の写し等）

### 【ご自身の病気】

必要書類：疾病状況を証明、あるいは説明できるもの（医師の診断書等）

- 出願締切：2024年6月28日（金） 必着
- 選考方法：面接を行います。
- 選考日（面接）：2024年7月10日（水）午前予定
- 勤務開始日：2024年10月1日（火）以降
- お問い合わせ・書類提出先

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 宛  
TEL/FAX：(092) 642-5203  
E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

### 【令和6年度秋 九州大学病院きらめきプロジェクト スタッフ募集(医科・歯科)の結果報告】

- 面接日：2024年7月10日（水）
- 面接官：加藤 聖子（プログラム責任者）
- 応募人数：医師 1名
- 採用人数：医師 1名

### 令和7年度 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 非常勤医師・非常勤歯科医師募集のお知らせ

きらめきプロジェクトでは、魅力ある職場での生涯現役をめざして、医師・歯科医師の臨床現場定着及び復帰支援を進めています。育児、介護、自身の病気などのために常勤での勤務が困難であるが、専門医取得資格の継続、アカデミックキャリアの継続などを目的として非常勤で九州大学病院に勤務することを希望される医師・歯科医師を、性別を問わず募集します。

#### ○求める人材

九州大学病院でご自身の専門性を生かし、非常勤の医師及び歯科医師として勤務することを希望する方

#### ○職務内容

- ・ 医師：ご自身の専門とされる診療科と相談の上、職務内容を決定(主に外来診療、検査業務)
- ・ 歯科医師：所属する診療科での診療及び周術期口腔ケアセンターでの予防外来診療
- ・ 共通職務：きらめきプロジェクトのイベントなど運営業務への協力

#### ○募集要項

- ・ 募集予定人数 3～4名
- ・ 処遇

【身分】 学術研究員（非常勤）

【勤務日数・勤務時間】 応相談

(週4時間～12時間まで、ただし1日実働6時間まで/休憩12:00～13:00)

【雇用期限】 年度末ごとの更新、ただし3年を上限とする

【給与】 大学の規定による

【福利厚生】 通勤手当支給（大学の規定による額） ※社会保険は加入対象外

○応募資格

育児・自身の病気・介護をされている医師及び歯科医師

○出願書類

- ・履歴書（3 cm × 4 cm 写真貼付、学歴は高校卒業以上を必ず記入すること）
- ・業績目録等
- ・今後の抱負『今後、どういうキャリアを目指しているか +（育児・介護、病気などの現在の状況）』
- ・博士課程の学位記（博士号をお持ちの場合：（写：A 4 サイズ）又は 学位授与証明書（原本）
- ・最終学歴の証明書（学位記（写：A 4 サイズ）、最終学歴の証明書（原本）、卒業修了証書（写：A 4 サイズ）のいずれか）
- ・保険医登録票（写）
- ・医師免許証（写：A 4 サイズ）
- ・応募理由に該当するものを提出

【育児をされている方】

- ・母子健康手帳取得者および小学校6年生までの子供をもつ医師、歯科医師  
必要書類：母子健康手帳（写）及び子供の年齢を証明できるもの（健康保険証または住民票の写し等）

【介護をされている方】

- ・家族（配偶者、父、母、兄弟、子供など）に要介護者、要看病者がいる医師、歯科医師  
必要書類：市町村による要介護認定等を証明できるもの（介護保険被保険者証の写し等）

【ご自身の病気】

必要書類：疾病状況を証明、あるいは説明できるもの（医師の診断書等）

○出願締切

2024年12月23日（月） 必着

○選考方法

応募者多数の場合は書類選考の上、面接を実施します。

○選考日（面接）

2025年1月8日（水）午前の予定

○勤務開始日

2025年4月1日（火）以降

○お問い合わせ・書類提出先

〒812-8582

福岡市東区馬出3-1-1

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 宛

TEL：（092）642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

【令和7年度九州大学病院きらめきプロジェクト スタッフ募集(医科・歯科)の結果報告】

○面接日：2025年1月8日（水）

○面接官：加藤 聖子（プログラム責任者）

落合 正行（副プログラム責任者）

宮田 潤子（副プログラム責任者）

清水 真弓（副プログラム責任者）

大山 順子（副プログラム責任者）

○応募人数：医師 6名 歯科医師 1名

○採用人数：医師 6名 歯科医師 1名

## 編集後記

ようやくコロナ禍の長いトンネルを抜け、以前と同じような日々が戻ってきました。

2024年4月からは医師の働き方改革を進めるための新しいルールが始まりました。地域に必要とされる医療を持続的に提供できる社会の実現を目指していく中で、本プロジェクトの役割もその一端を担っていると考えています。

これからも、本プロジェクトを必要とする医師、歯科医師の方々のサポートを行ってまいります。しかしながら、本プロジェクトのサポートが特別なことではなくなり、医師、歯科医師の方々が何の心配もなく業務にあたることのできる未来を望んでやみません。

今後も、医療に携わっている方々が幸せに働き続けられること、また医療に携わることを目標とする方々が安心して将来を考えることができることを目指していきたいと考えております。

今後とも、皆様のご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

きらめきプロジェクト事務局編集担当 西 元子

---

## 令和6年度 九州大学病院 きらめきプロジェクト報告書

発行 九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号  
TEL/FAX : 092-642-5203  
E-mail : kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
HP : <https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>

編集 西 元子

印刷 株式会社ミドリ印刷  
〒812-0857 福岡市博多区西月隈1丁目2番11号  
TEL : 092-441-6747 FAX : 092-473-1275  
HP : <http://www.midori-p.com/>

---





九州大学病院  
KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

発行 九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト  
TEL/FAX:092-642-5203  
E-mail:kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
HP:<https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>

